

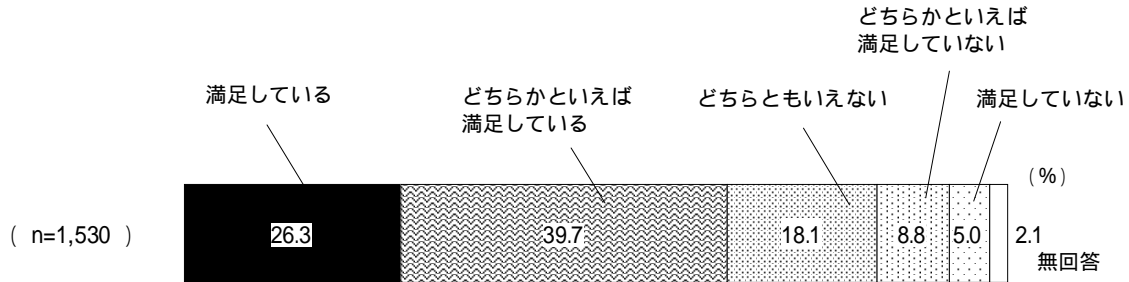
## 第2部 就学児童

# 第1章 子育てについての考え

## 1-1 子育て中の現在の生活についての満足度

Q1-1 あなたは、子どもを育てている現在の生活に、満足していますか。( は1つ)

図1-1

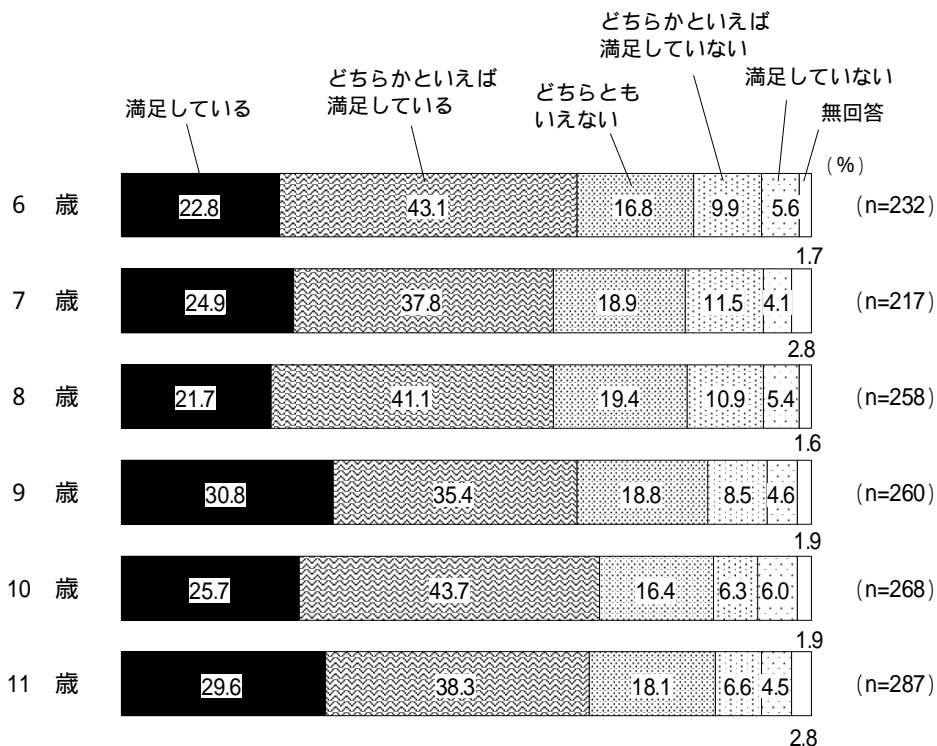


子どもを育てている現在の生活に対して、「満足している」が26.3%で、これに「どちらかといえば満足している」(39.7%)を合わせた満足度は66.0%を占めている。

一方、「どちらかといえば満足していない」(8.8%)と「満足していない」(5.0%)を合わせた不満度は13.8%となっている。

子どもの年齢別でみると、9歳・11歳では、「満足している」との強い満足感を覚える人が、3割前後を占めて、他の年齢より多くなっている。

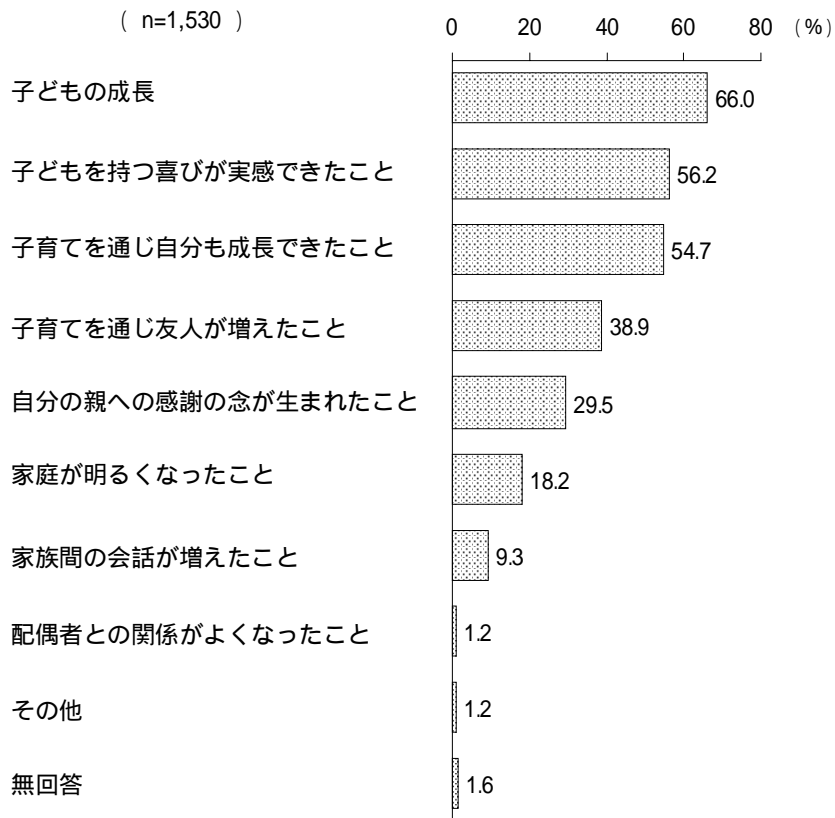
図1-2 子どもの年齢別 子育て中の現在の生活についての満足度



1 - 2 子育てをしてよかったこと、嬉しかったこと

Q 1 - 2 子育てをしてよかったこと、嬉しかったことは何ですか。( は3つまで)

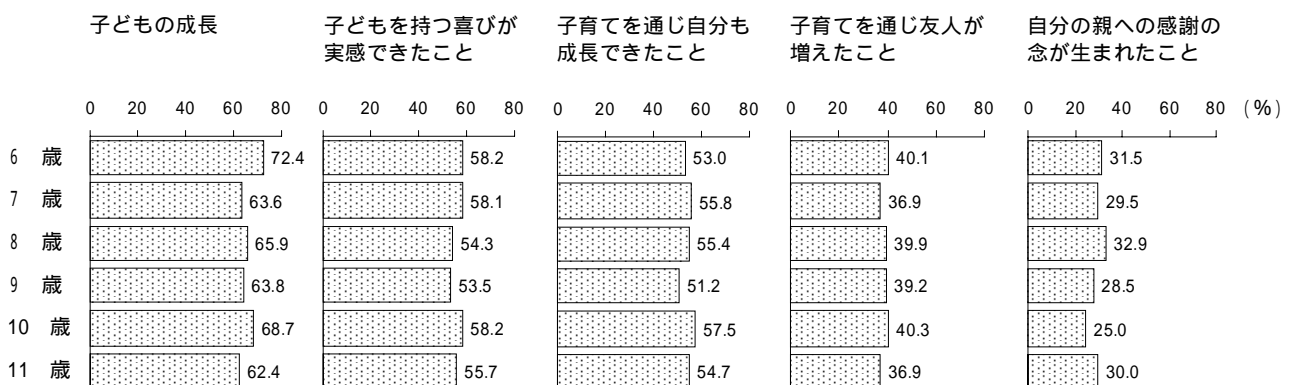
図 1 - 3



子育てをしてよかったことや嬉しかったこととしては、「子どもの成長」が66.0%で最も多く、これに「子どもを持つ喜びが実感できたこと」(56.2%)と「子育てを通じ自分も成長できたこと」(54.7%)が次いでいる。また、「子育てを通じ友人が増えたこと」という人も38.9%と多くなっている。

また、子どもの年齢別でみると、6歳で、「子どもの成長」が72.4%で、唯一7割を超えている。

図 1 - 4 子どもの年齢別 子育てをしてよかったこと、嬉しかったこと(上位5位)

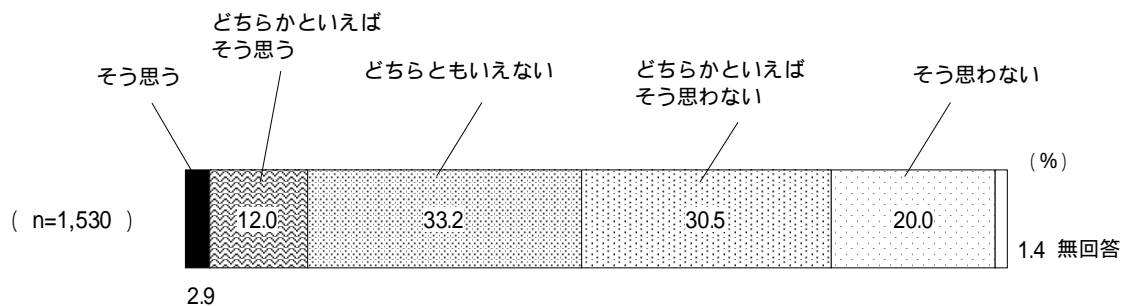


1 - 3 「子どもを育てること」への社会の評価

Q 1 - 3 「子どもを育てること」を、今の社会は十分に評価していると思いますか。

( は1つ )

図 1 - 5



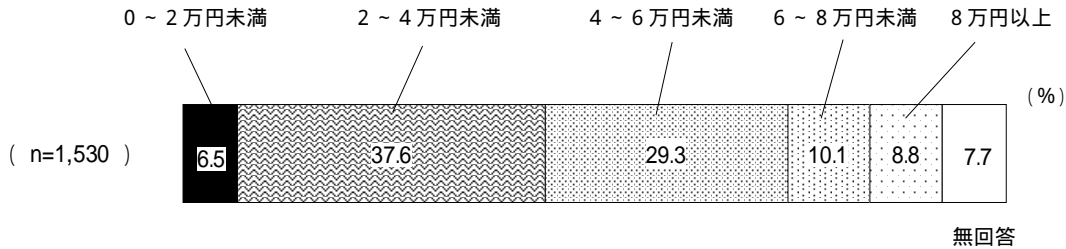
『子どもを育てること』を社会が評価しているかについては、「そう思う」が2.9%で、これに「どちらかといえばそう思う」(12.0%)を合わせると、評価していると思う は14.9%である。

これに対して、「どちらかといえばそう思わない」(30.5%)と「そうは思わない」(20.0%)を合わせた 評価していないと思う は50.5%を占めて、評価していると思う を大きく上回っている。

1 - 4 子育てにかかる1ヶ月の費用

Q2 該当のお子さんの子育てにかかる費用は1ヶ月いくら位ですか。 中におおよその金額を記入してください。

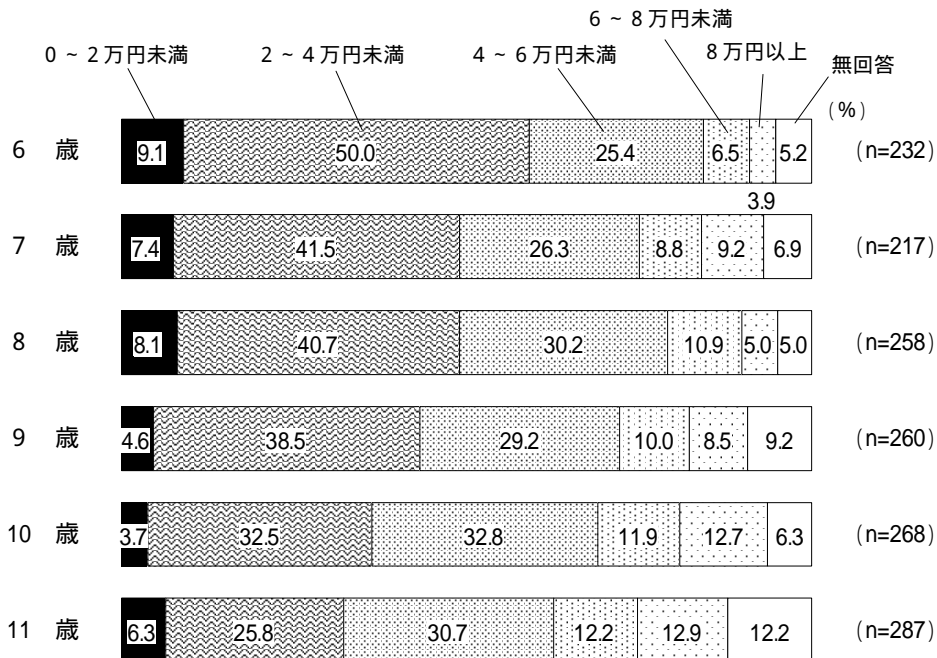
図1 - 6



子育てにかかる1ヶ月分の費用としては、「2～4万円未満」が37.6%で最も多く、これに「4～6万円未満」(29.3%)が次いでいる。また、この結果を平均すると「4.3万円」となる。

子どもの年齢別でみると、6歳では、「2～4万円未満」が50.0%を占めているが、7歳以降になると、年齢が高くなるにつれて、「6～8万円未満」「8万円以上」が増加する傾向がある。

図1 - 7 子どもの年齢別 子育てにかかる1ヶ月の費用

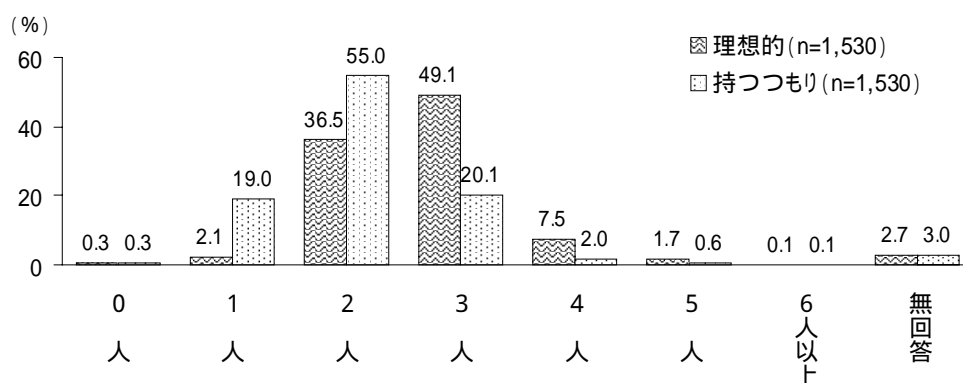


1 - 5 理想と持つつもりの子どもの人数

Q3 - 1 あなたにとって理想的な子どもの人数は何人ですか。また、あなたは全部で何人の子どもを持つつもりですか。

(「理想的な子どもの人数」、「持つつもりの子どもの人数」それぞれ1つずつ)

図 1 - 8



理想的な子どもの数は、「3人」が49.1%で最も多く、これに「2人」(36.5%)が次いでいる。一方、持つつもり的人数としては、「2人」が55.0%と過半数を占めている。一方、「3人」は20.1%に留まっており、理想と現実のギャップが明確にあらわれている。

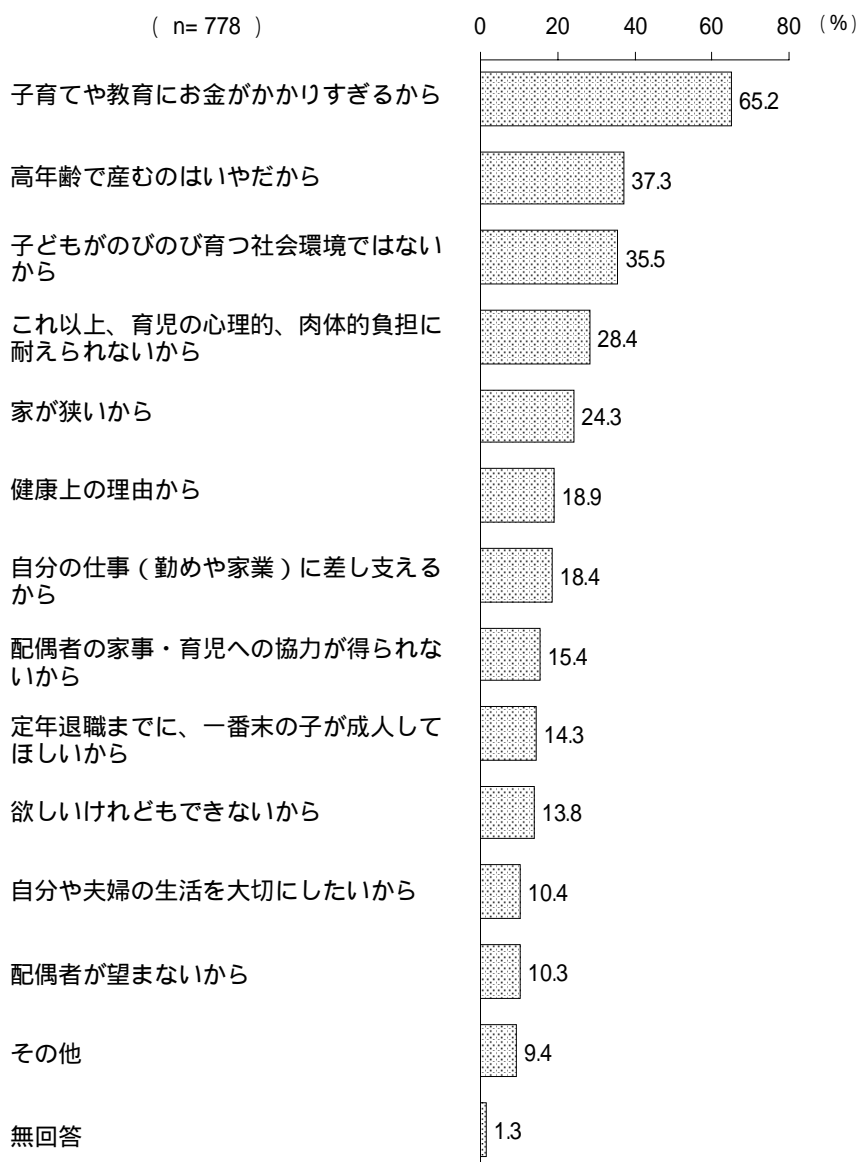
1 - 6 子どもが理想より少ない理由

【次のQ3 - 2は、Q3 - 1で「持つつもりの子どもの人数」が、「理想的な子どもの人数」より少ない方におたずねします】

Q3 - 2 持つつもりの子どもの人数が、理想とする子どもの人数より少ないのはどうしてですか。次のうち、あてはまる理由すべてに をつけ、最大の理由には をつけてください。

全ての理由

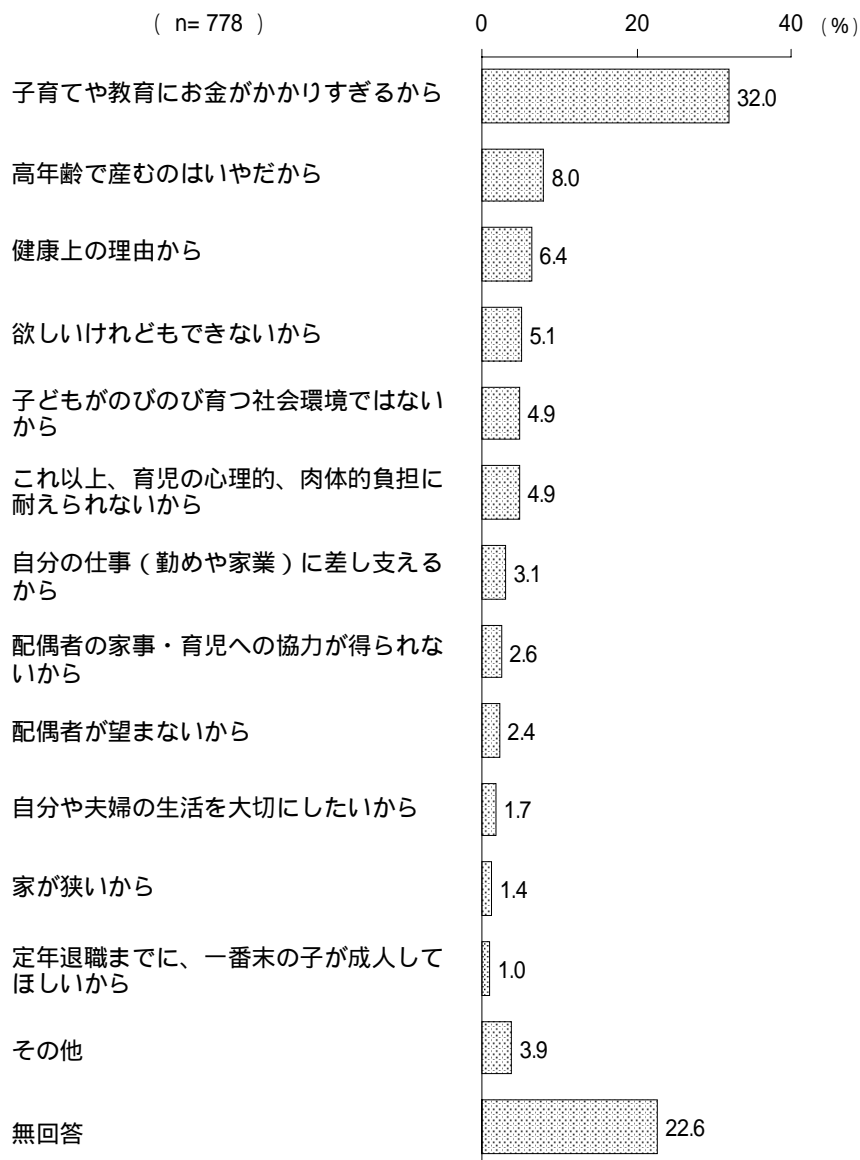
図 1 - 9



持つつもりの子どもの数が、理想より少ない人に、その理由をきくと、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が65.2%で最も多く、以下「高年齢で産むのはいやだから」(37.3%)、「子どもがのびのび育つ社会環境ではないから」(35.5%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(28.4%)、「家が狭いから」(24.3%)の順で続いている。

## 最大の理由

図 1 - 10

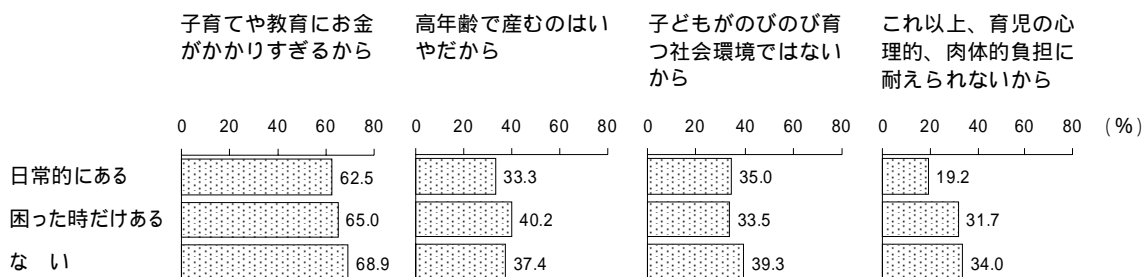


次に、その最大の理由をきくと、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」( 32.0% )が突出して多くなっている。この他の理由は各項目に分散しているが、その中では「高年齢で産むのはいやだから」( 8.0% )と「健康上の理由から」( 6.4% )が多くなっている。



全ての理由を、祖父母や親族による子育ての支えの有無別で見ると、子育ての支えが 困った時だけある ない という人では、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」が、それぞれ31.7%・34.0%と、子育ての支えが ある という人に比べて多くなっている。

図 1 - 11 子育ての支えの有無別 子どもが理想より少ない理由（上位 4 位）

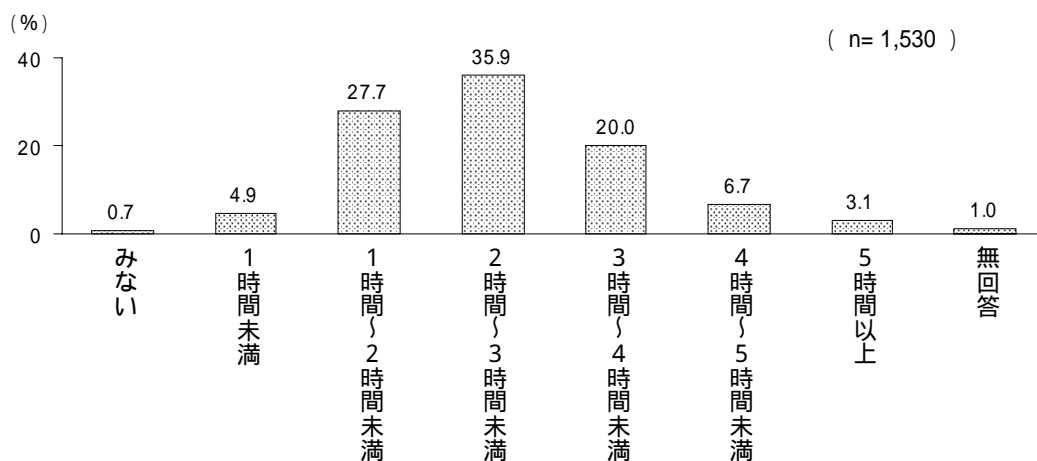


## 第2章 子どもの日常生活

### 2 - 1 テレビ・ビデオの視聴時間

Q 4 - 1 該当のお子さんは1日に何時間くらいテレビやビデオを見ていますか。

図 2 - 1

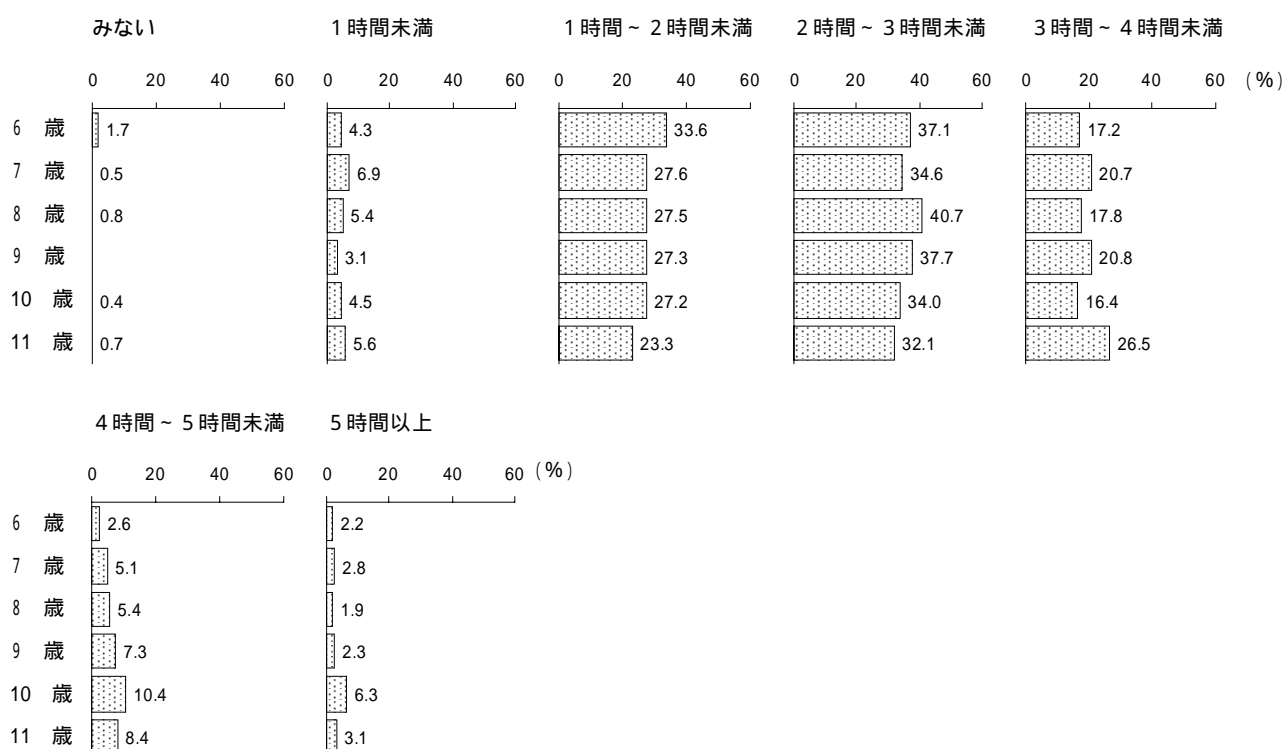


1日に、子どもがテレビやビデオを見る時間は、「2時間～3時間未満」が35.9%で最も多く、以下「1時間～2時間未満」(27.7%)、「3時間～4時間未満」(20.0%)が次いでいる。

また、この結果を平均すると「2.1時間」となる。

子どもの年齢別でみると、10歳・11歳では、1日「4時間～5時間未満」「5時間以上」が、他の年齢に比べて多くなっている。

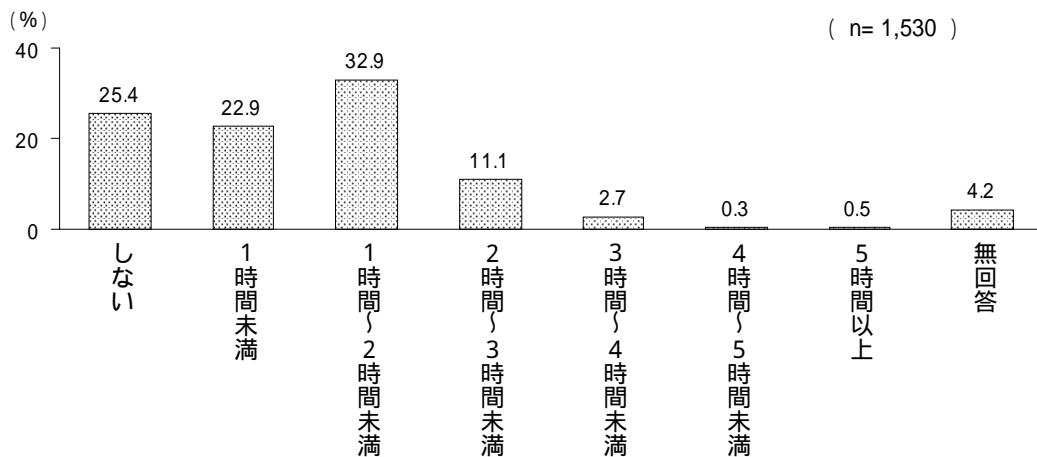
図 2 - 2 子どもの年齢別 テレビ・ビデオの視聴時間



## 2 - 2 テレビゲームやパソコンで遊ぶ時間

Q 4 - 2 該当のお子さんは1日に何時間くらいテレビゲームやパソコンなどで遊んでいますか。

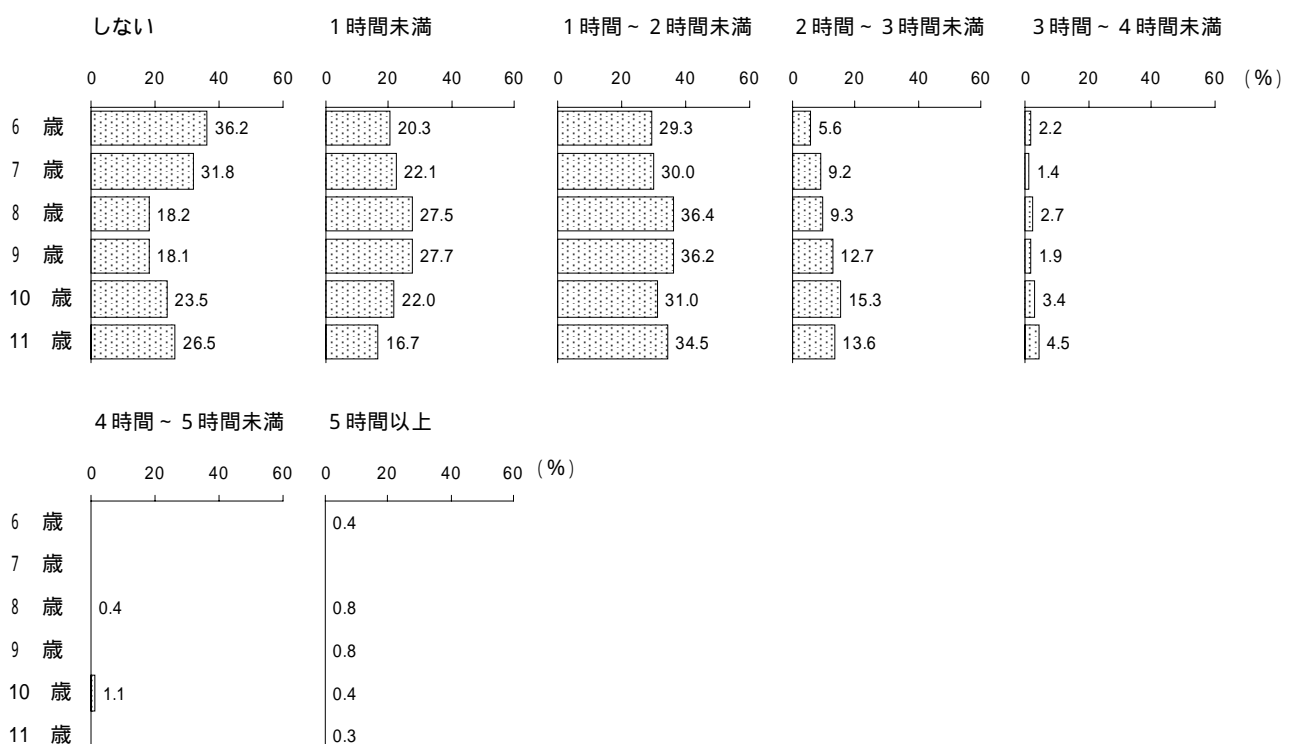
図 2 - 3



1日に、子どもがテレビゲームやコンピューターゲームをする時間は、「1時間～2時間未満」が32.9%で最も多く、以下「1時間未満」(22.9%)、「2時間～3時間未満」(11.1%)が次いでいる。また、この結果を平均すると「0.8時間」となる。

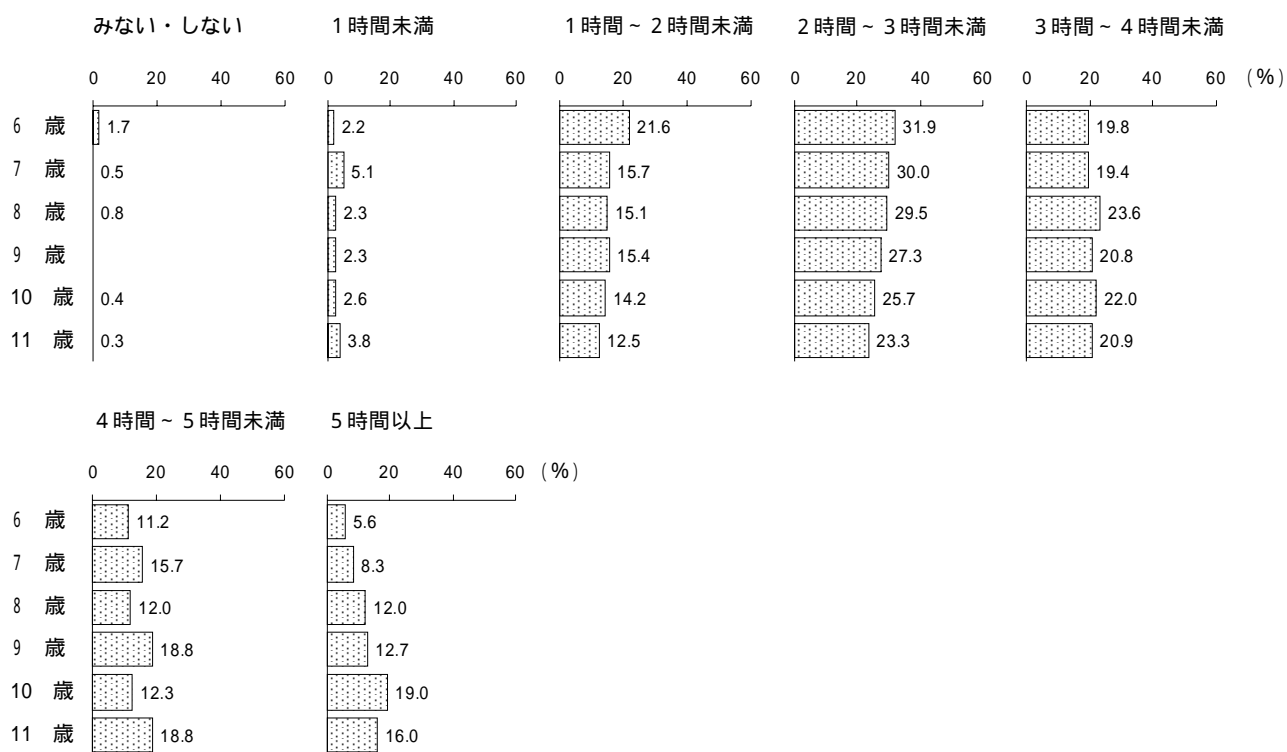
子どもの年齢別でみると、10歳・11歳では、「2～3時間未満」「3～4時間未満」が、他の年齢に比べて多くなっている。

図 2 - 4 子どもの年齢別 テレビゲームやパソコンで遊ぶ時間



また、テレビ・ビデオなどの視聴時間とテレビゲームやパソコンで遊ぶ時間を合計したものを、子どもの年齢別で見ると、9歳・10歳・11歳では「4～5時間未満」「5時間以上」が、他の年齢に比べて多くなっている。

図2 - 5 子どもの年齢別 テレビやゲームなどで遊ぶ時間

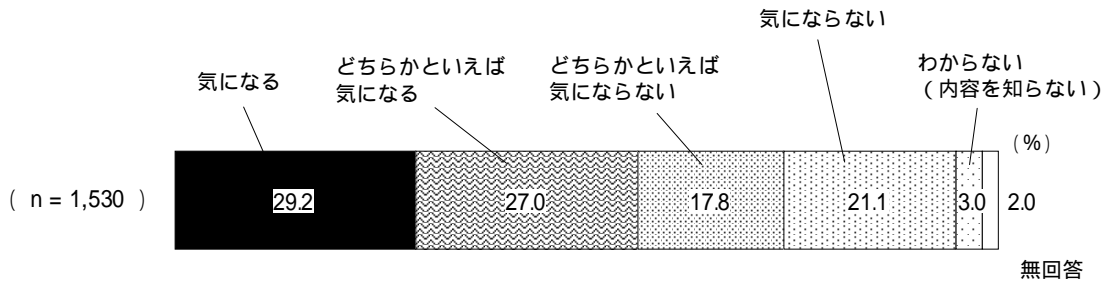


2 - 3 テレビゲーム等の残虐性、暴力描写について

Q 4 - 3 該当のお子さんが見ているテレビやビデオ、雑誌、遊んでいるテレビゲームやパソコンなどについて、残虐性や暴力描写等が気になることがありますか。

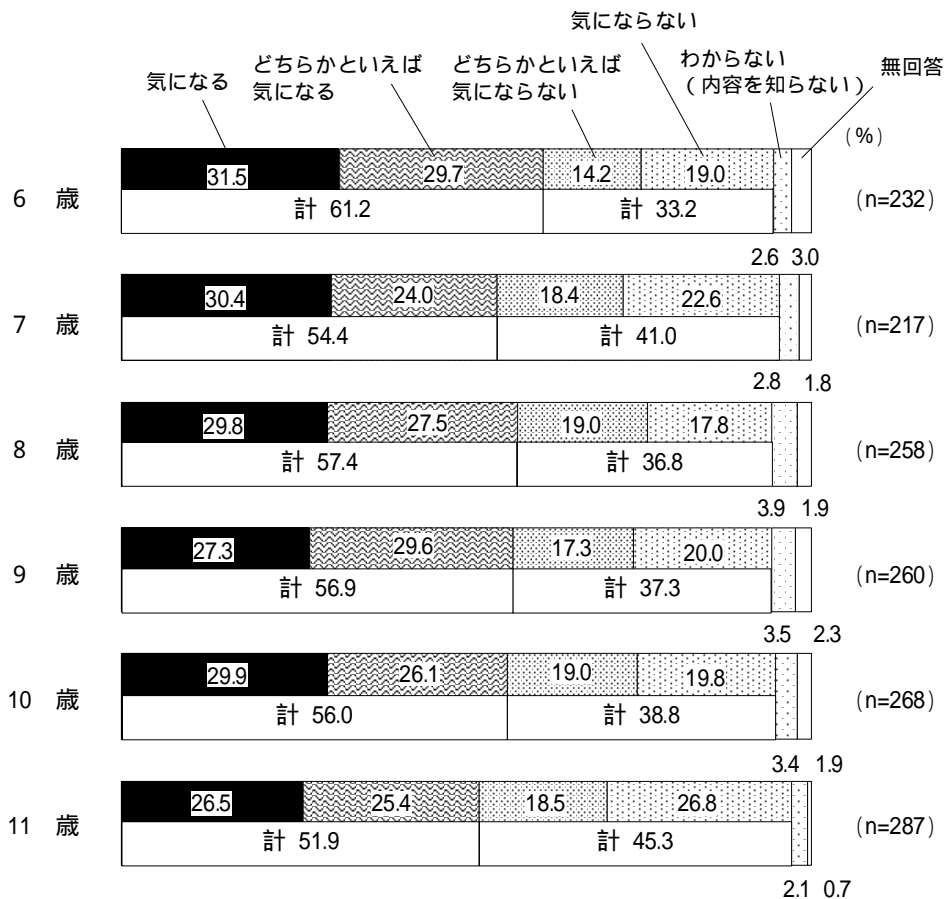
( は1つだけ)

図 2 - 6



テレビ、ビデオ、テレビゲームやコンピューターゲームにおける残虐性や暴力描写等が「気になる」は29.2%、「どちらかといえば気になる」は27.0%となっている。また、「気にならない」は21.1%となっている。

図 2 - 7 年齢別 テレビゲーム等の残虐性、暴力描写についての心配



2 - 4 生命の大切さを教える工夫

Q5 家庭でお子さん（該当のお子さんに限りません）に生命の大切さを教える工夫をしていますか。（ は1つだけ）

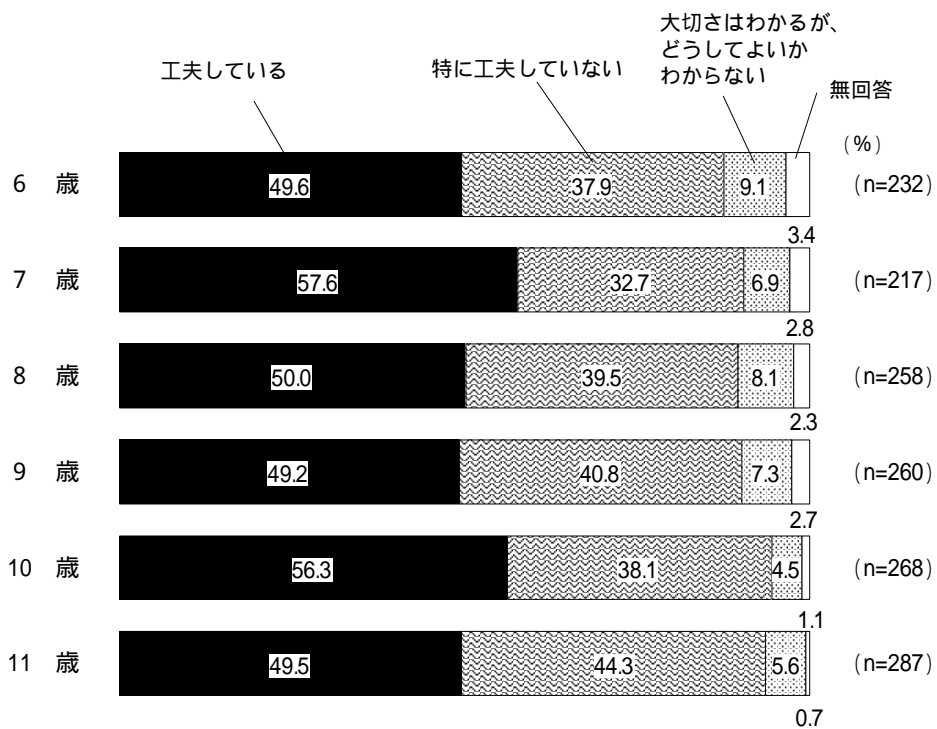
図 2 - 8



家庭で生命の大切さを教えることについて「工夫している」は52.0%と過半数を占めている。一方、「特に工夫していない」は39.1%である。

また、「大切さはわかるが、どうしてよいかわからない」という人も6.8%いる。

図 2 - 9 年齢別 生命の大切さを教える工夫の状況



## 2 - 5 生命の大切さを教える工夫についての自由回答

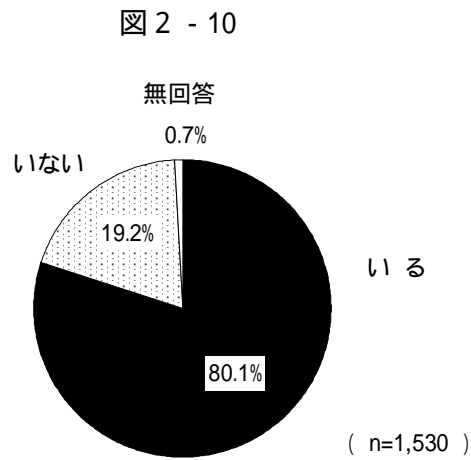
Q5で、家庭でお子さんに生命の大切さを教える工夫をしていますかという質問に「工夫している」と応えた方に、その内容を具体的にお聞きしたところ、687人から回答が寄せられた。

1人で2つ以上の内容の記入があった場合には、これを1件とせずに延件数として集計したので、件数は回答者数よりも多くなっている。

内 容	件数
ペットを飼うことを通じて、生命の大切さを教えている。	236
テレビや新聞で、戦争、事故、虐待等、人間の生命に関わる事件が報道されたとき、生命の大切さについて話し合うようにしている。	202
日頃から生命の大切さ、人を思いやることの大切さ、人を傷つけてはいけないこと等を話すようにしている。	126
子どもが生まれたときの親の喜びや、親が子どもをどれほど深く愛しているかを普段から話している。	38
本の読み聞かせをしながら、生命の大切さを教えている。	29
植物を育てることを通じて、生命の大切さを教えている。	22
肉親が、兄弟の死、流産、墓参り等、人間の死と向き合う機会を通じて、人間の生命が一回限りのものであり、死んだら生き返らないという事実について、話している。	20
自然とのふれあいを通じて、生命の大切さを教えている。	17
宗教を通じて、生命の大切さを教えている。	10
食べ物の大切さを話しながら、生命の大切さを教えている。	9
戦争の悲惨さについて、話すようにしている。	6
日頃から（外出のときに事故にあったり、誘拐されたりしないよう）自分の安全に気をつけるよう言っている。	5
子育てを手伝わせている	2
出産に立ち合わせる	2
その他	4
合 計	728

## 2 - 6 かかりつけ医の有無

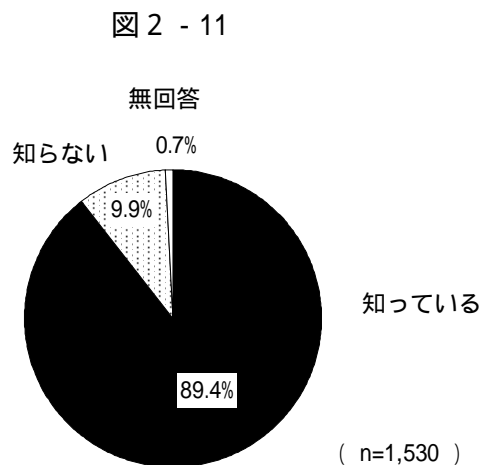
Q 6 - 1 該当のお子さんのかかりつけの医者がいますか。( は1つ)



子どもに、かかりつけ医が「いる」という家庭は80.1%を占めている

## 2 - 7 休日や夜間に子どもが受診できる医療機関

Q 6 - 2 休日や夜間にお子さん( 該当のお子さんに限りません )が病気になったときに受診できる医療機関を知っていますか。( は1つ)



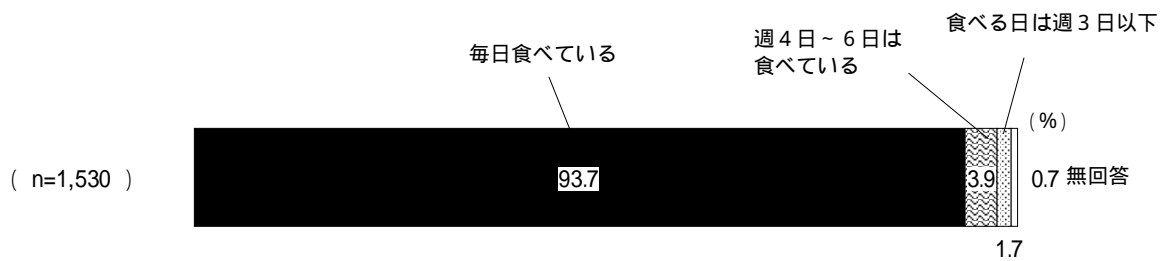
休日や夜間に受診できる医療機関を「知っている」という人は89.4%を占めている。



2 - 8 朝食の摂取状況

Q 7 - 1 該当のお子さんは毎日朝食を食べていますか。( は1つ)

図 2 - 12



お子さんが朝食を、「毎日食べている」は93.7%と圧倒的に多くなっている。一方、比率は少ないとはいえ、「週4日～6日は食べている」が3.9%、「食べる日は週3日以下」が1.7%いる。

2 - 9 子どもだけで食事をとることの有無と回数

Q7 - 2 該当のお子さんが、お子さんだけで、食事（朝食、昼食、夕食のいずれを問わず）をとることはありますか。（ は1つ）

図 2 - 13

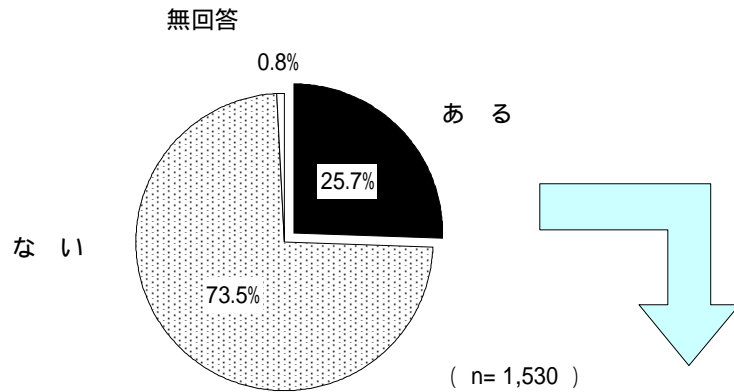
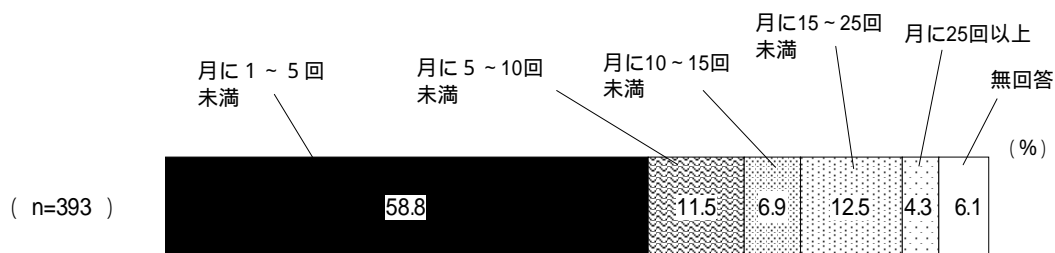


図 2 - 14 月の回数



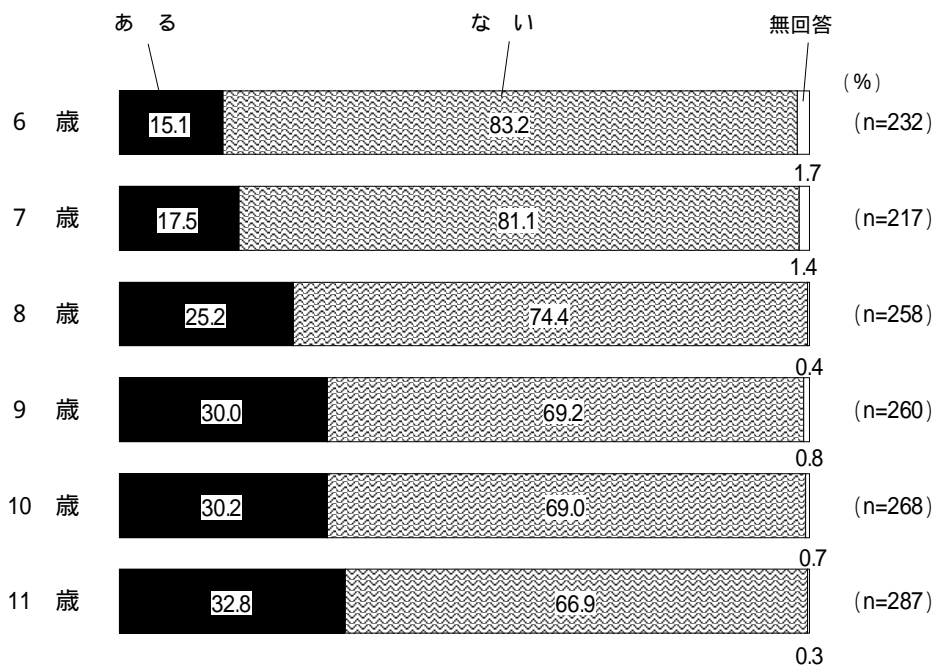
子どもだけで食事をとることが「ある」という家庭は25.7%を占めている。

子どもだけで食事をとることが「ある」という家庭（全体の25.7%）に、その回数をきいたところ、「月に1～5回未満」が58.8%と6割近くを占めている。一方、「月に25回以上」という家庭も4.3%いる。

また、この結果を平均すると「月に6.6回」となる。

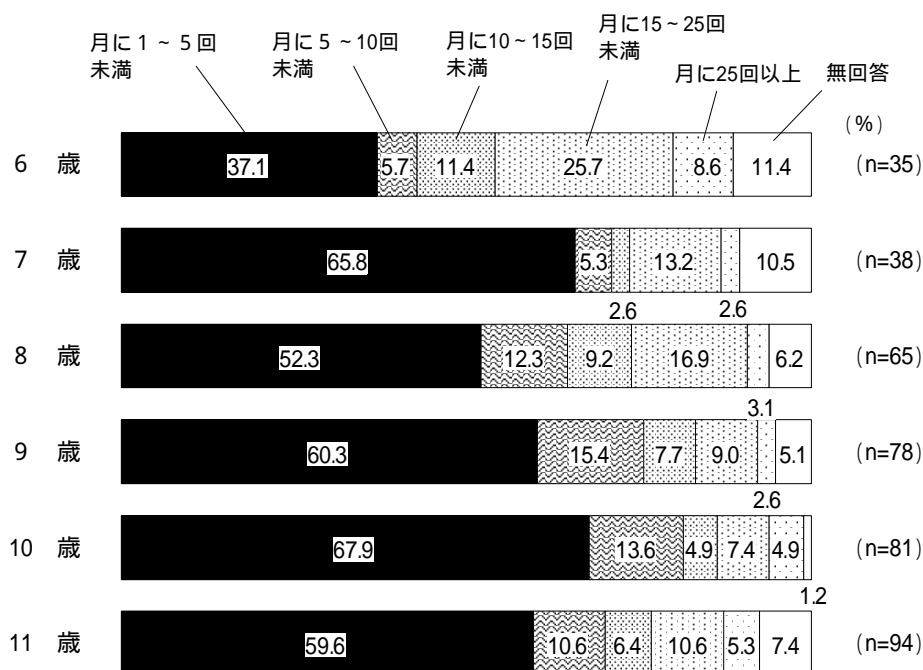
子どもだけで食事をとることの有無を子どもの年齢別で見ると、加齢とともに「ある」が増加していき、9歳以上では30%を超えている。

図2 - 15 子どもの年齢別 子どもだけで食事をとることの有無



子どもだけで食事をとることの回数を子どもの年齢別で見ると、6歳では、「月に15~25回未満」が25.7%を占めているほか、7歳・8歳でも1割を超えている。

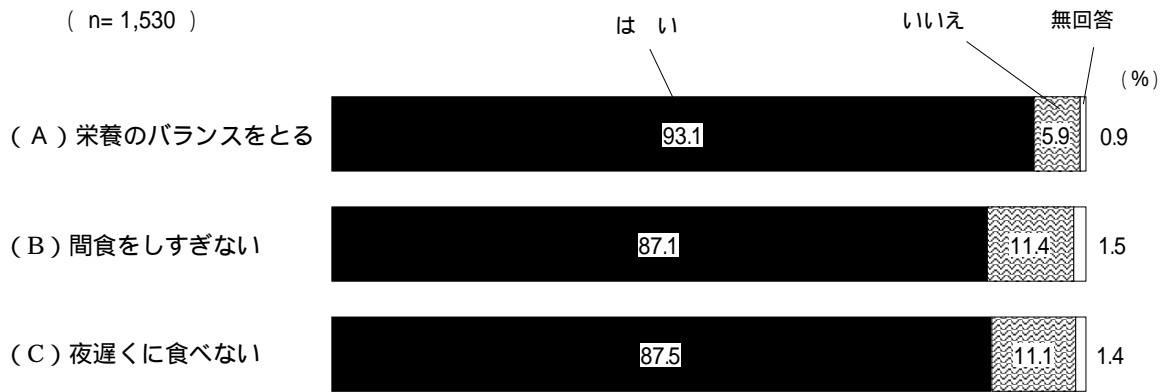
図2 - 16 年齢別 子どもだけで食事をとる回数



2 - 10 子どもの食事について意識的に気をつけていること

Q7 - 3 次の(A)～(C)のうち、該当のお子さんについて、意識的に気をつけて実行していることを、それぞれ、「1. はい」、「2. いいえ」の中からお答えください。

図 2 - 17



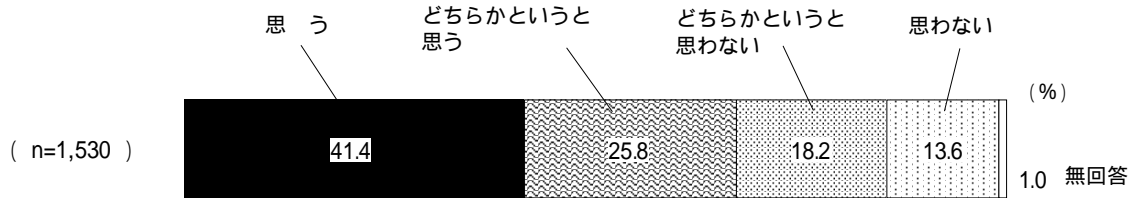
子どもの食事について気をつけていることとしては、栄養のバランスをとる が93.1%で最も多く、これに 夜遅くに食べない (87.5%)、間食をしすぎない (87.1%)が続いており、全体として高い比率となっている。

2 - 11 家の広さや間取りは子育てに十分か

Q 8 - 1 あなたの家は子育てするために十分な広さや間取りだと思いますか。

( は1つ )

図 2 - 18



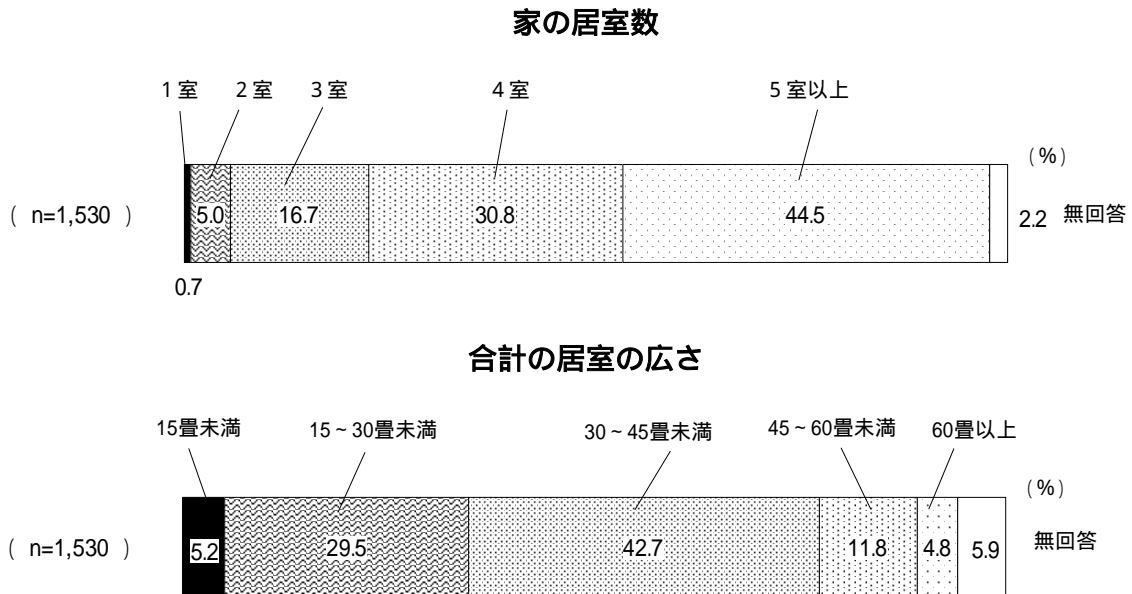
家の間取りについて、子育てするのに十分な広さであると「思う」は41.4%で、これに「どちらかといえばそう思う」(25.8%)を合わせた 十分な広さがあると思う は67.2%と、7割近くを占めている。

一方、「どちらかというと思わない」(18.2%)と「思わない」(13.6%)を合わせた 十分な広さがあると思わない は31.8%となっている。

2 - 12 家の居室数と広さ

Q 8 - 2 あなたの家の居室（台所や浴室は含みません）は何部屋で、広さは合計で何畳分くらいになりますか。

図 2 - 19



家の広さとしては「5室以上」が44.5%で最も多く、これに「4室」(30.8%)、「3室」(16.7%)が次いでいる。

また、この結果を平均すると「4.5室」となる。

2 - 13 子ども部屋の必要性とその年齢

Q 8 - 3 「子ども部屋」は必要だと思いますか。( は1つだけ)

図 2 - 20

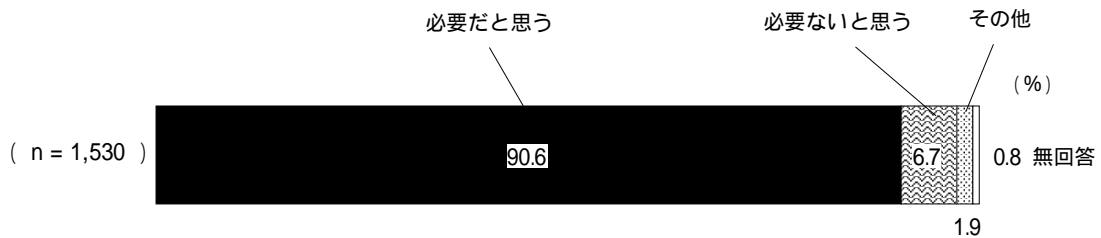
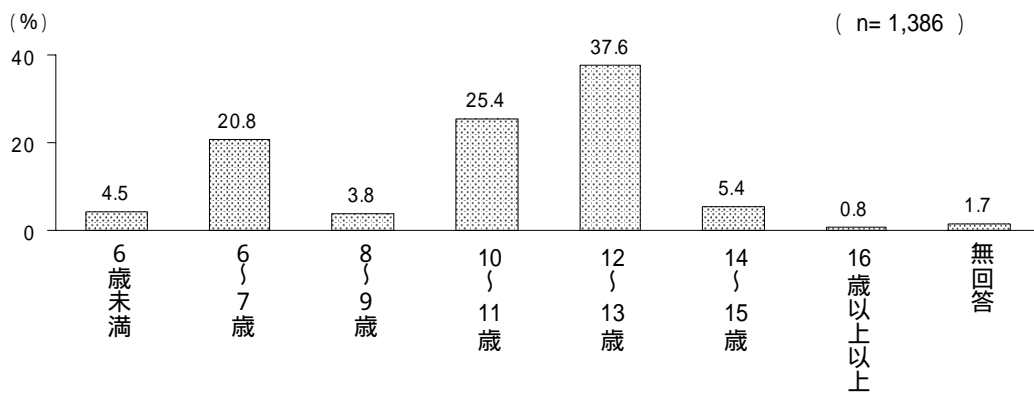


図 2 - 21 何歳くらいから必要か



子どもの部屋が「必要だと思う」が90.6%を占めている。

子どもの部屋が「必要だと思う」人(90.6%)に、子ども部屋が必要となる子どもの年齢をきいたところ、「12~13歳」が37.6%で最も多く、これに「10~11歳」(25.4%)と「6歳~7歳」(20.8%)が次いでいる。

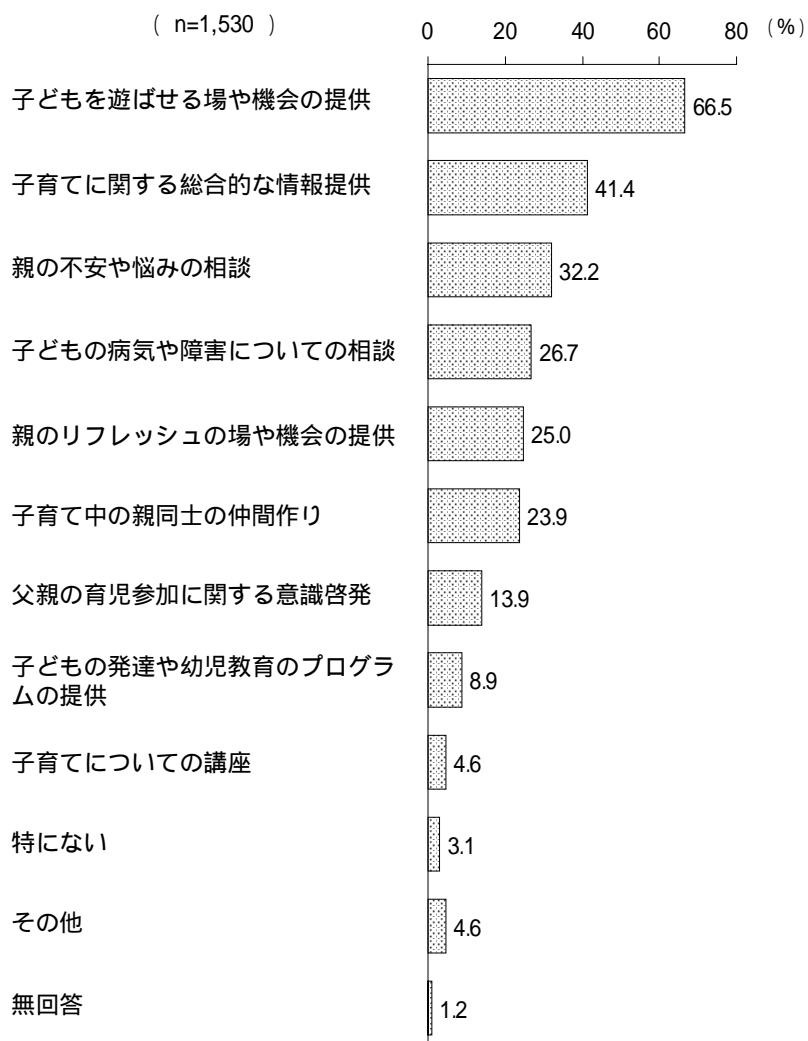
また、この結果を平均すると「10.2歳」となる。

### 第3章 育児サービス

#### 3 - 1 子育てを楽しく安心して行うために必要なサービス

Q9 日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサービスはどのようなものだと思いますか。( は3つまで)

図3 - 1



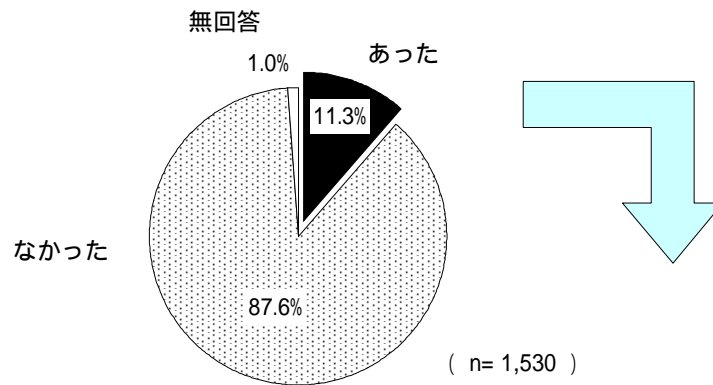
楽しく子育てするのに必要なサービスとしては、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が66.5%で最も多く、以下「子育てに関する総合的な情報提供」(41.4%)、「親の不安や悩みの相談」(32.2%)、「子どもの病気や障害についての相談」(26.7%)の順が続いている。



### 3 - 2 やむを得ない事情で子どもを泊まりがけで預けたこと

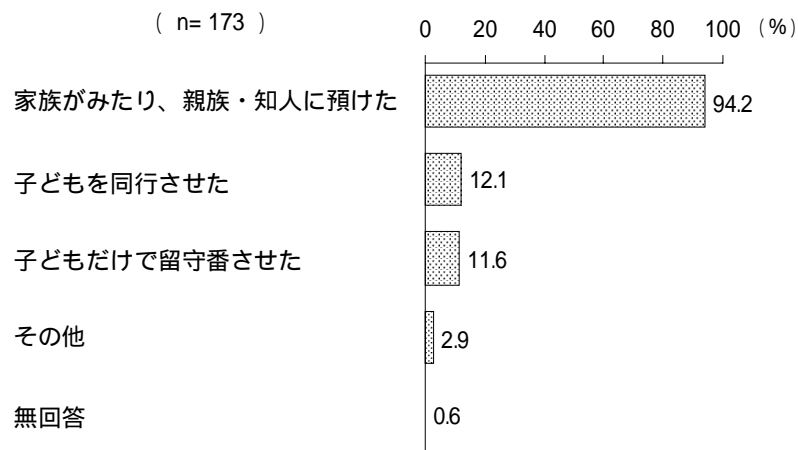
Q 1 0 この1年間に、保護者の病気や出産などのやむを得ない事情により該当のお子さんを泊まりがけで預けなければならないような事情が生じたことはありましたか。

図 3 - 2



具体的な対処方法とおおよその日数は？

図 3 - 3



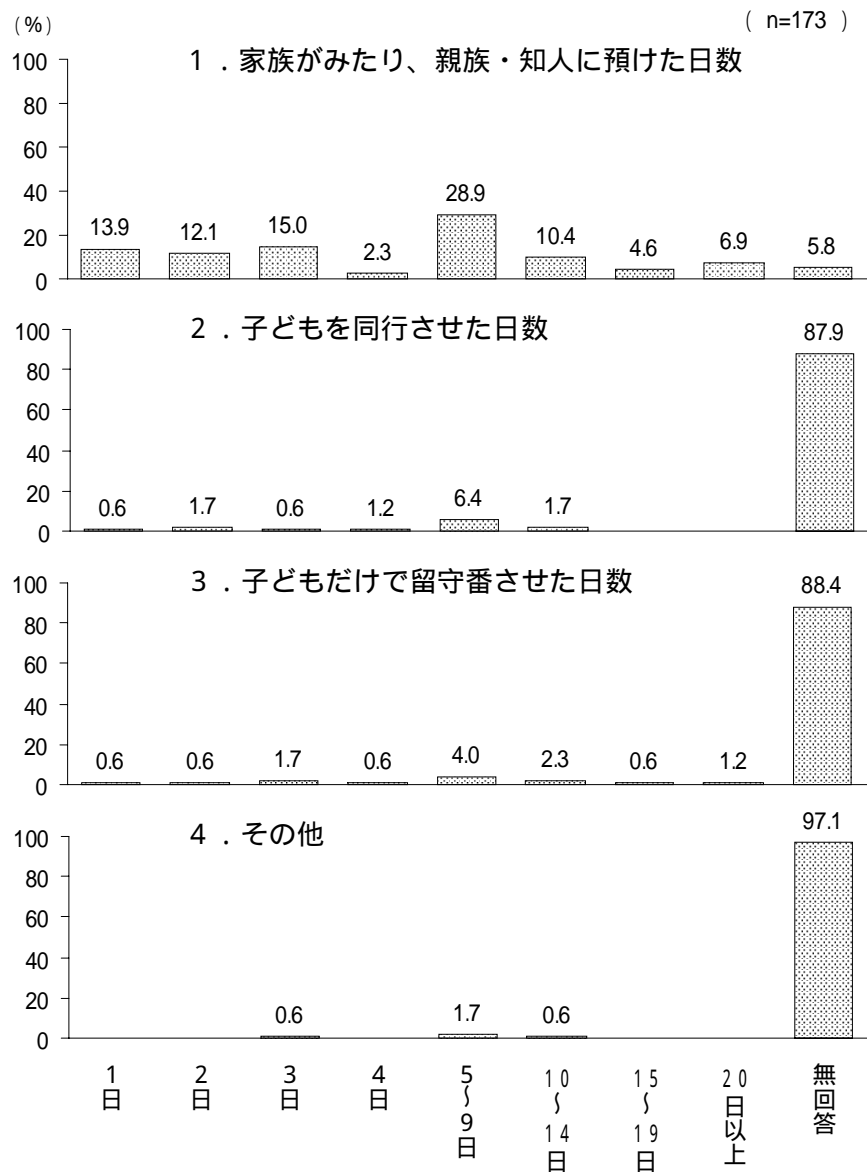
子どもを泊まりがけで家族以外に預けたことが「あった」は11.3%となっている。

子どもを泊まりがけで家族以外に預けたことが「あった」と回答した人に、対処方法とその泊数をきいた。

対処方法としては、「家族がみたり、親族・知人に預けた」が94.2%と突出して多くなっている。

図 3 - 4

この1年間で...

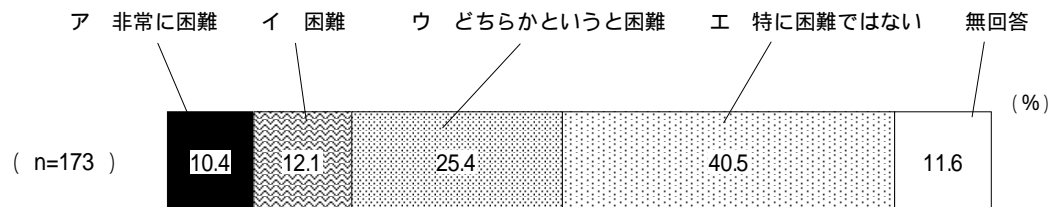


対処方法で、家族がみたり、親族・知人に預けた日数は、この1年で「5～9日」が28.9%を占めて多くなっている。

また、この結果を平均すると「8.1日」となる。

家族がみたり、親族・知人に預ける難しさは？

図 3 - 5

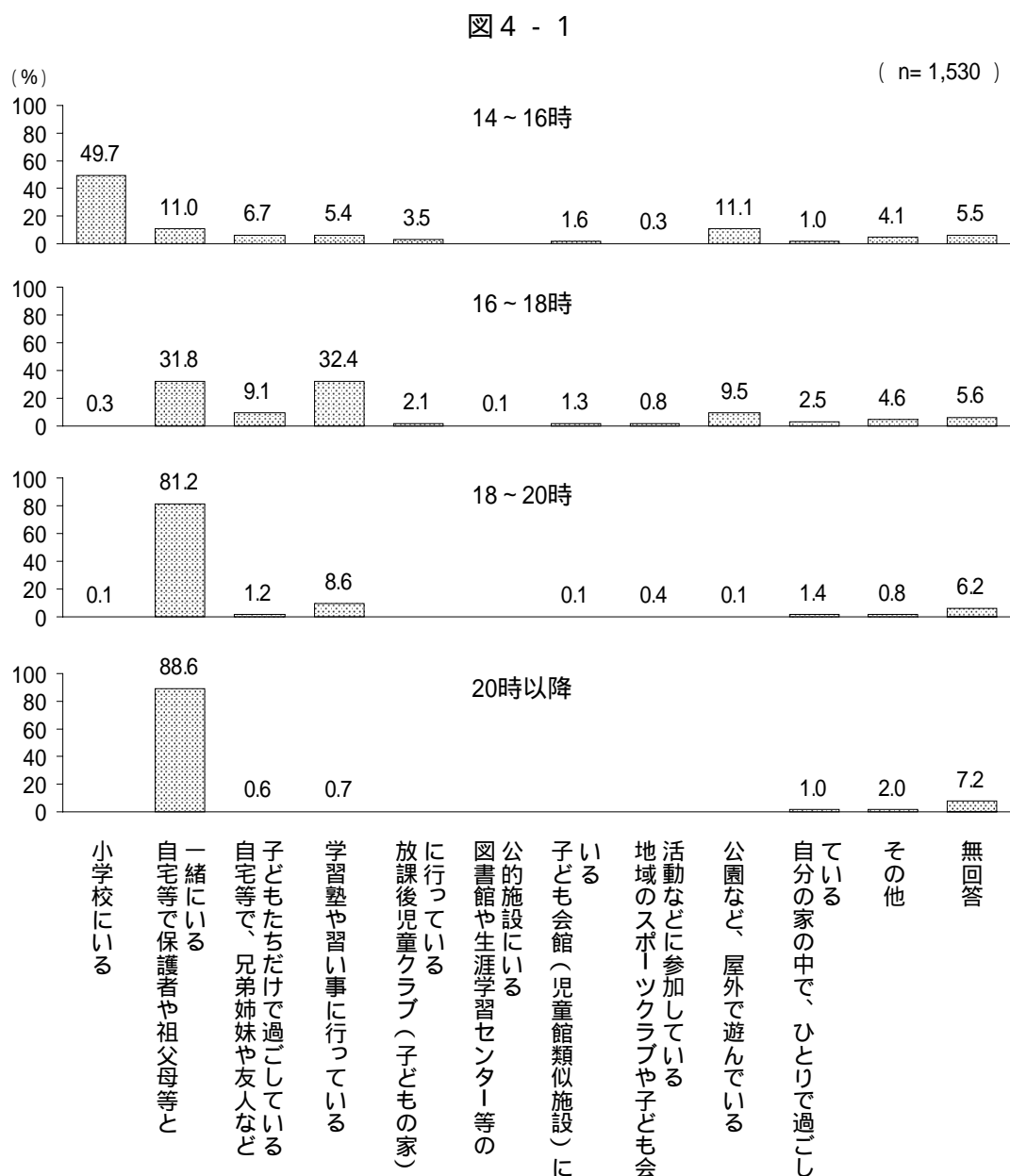


家族がみたり、親族・知人に預ける難しさは、「非常に困難」(10.4%)で、これに「困難」(12.1%)、「どちらかという困難」(25.4%)を合わせた 困難である は47.9%となっている。一方、「特に困難ではない」は40.5%となっている。

## 第4章 放課後や土曜日・休日の過ごし方

### 4 - 1 平日の放課後の過ごし方

Q 1 1 平日の放課後、該当のお子さんはどのように過ごしていますか。



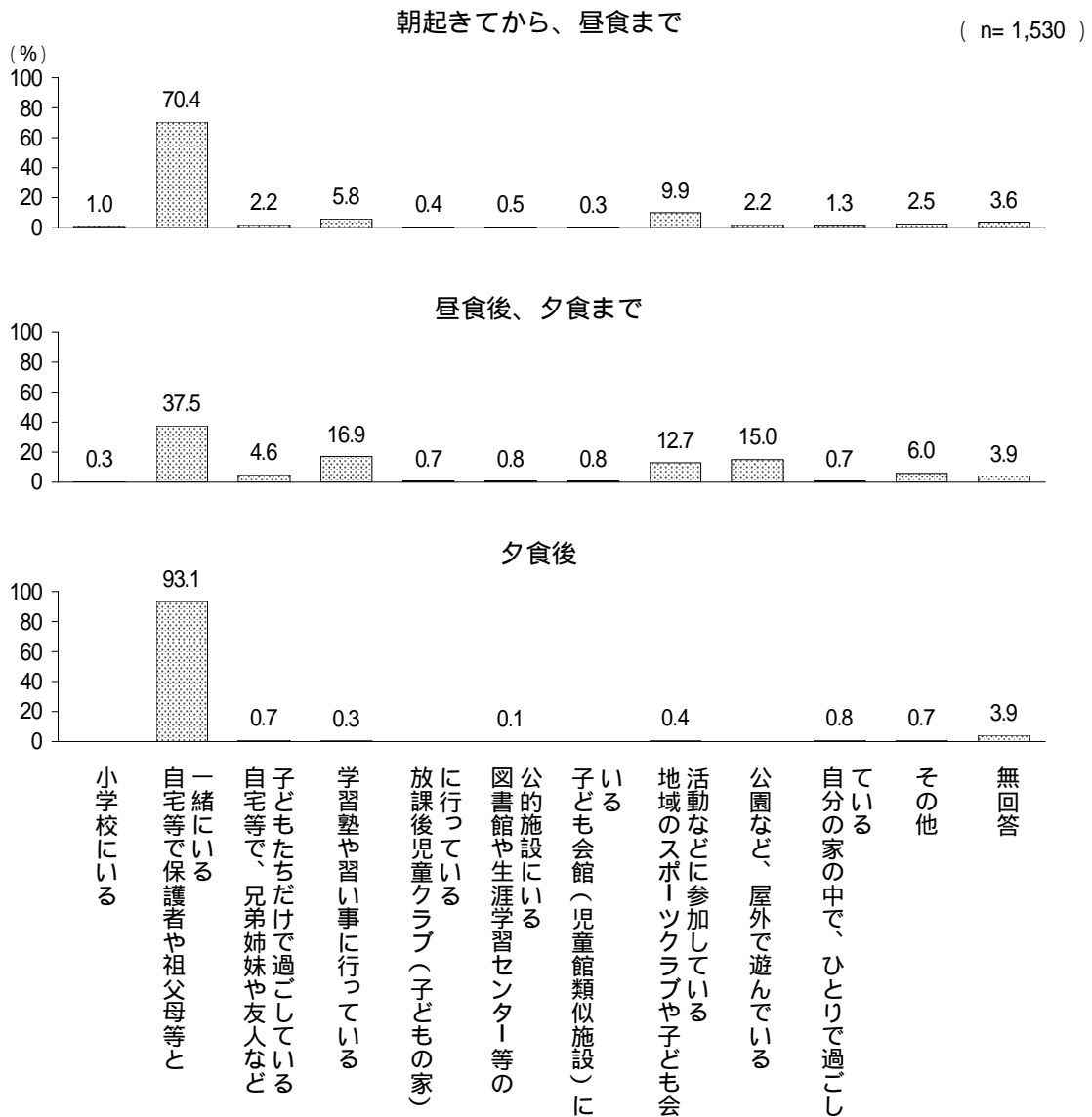
平日の放課後の日常的な子どもの過ごし方で一番多いものを、14~16時、16~18時、18~20時、20時以降の4つの時間帯についてきいた。

その結果、14~16時では、「小学校にいる」が49.7%と突出して多くなっている。16~18時では、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいた」(31.8%)、「学習塾や習い事に行っている」(32.4%)の2項目が多くなっている。18~20時では、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいる」が81.2%と圧倒的に多くなっている。

4 - 2 土曜日や休日の過ごし方

Q 1 2 学校が休みの土曜日や休日(日・祝日) 該当のお子さんはどう過ごしていますか。

図 4 - 2 土曜日



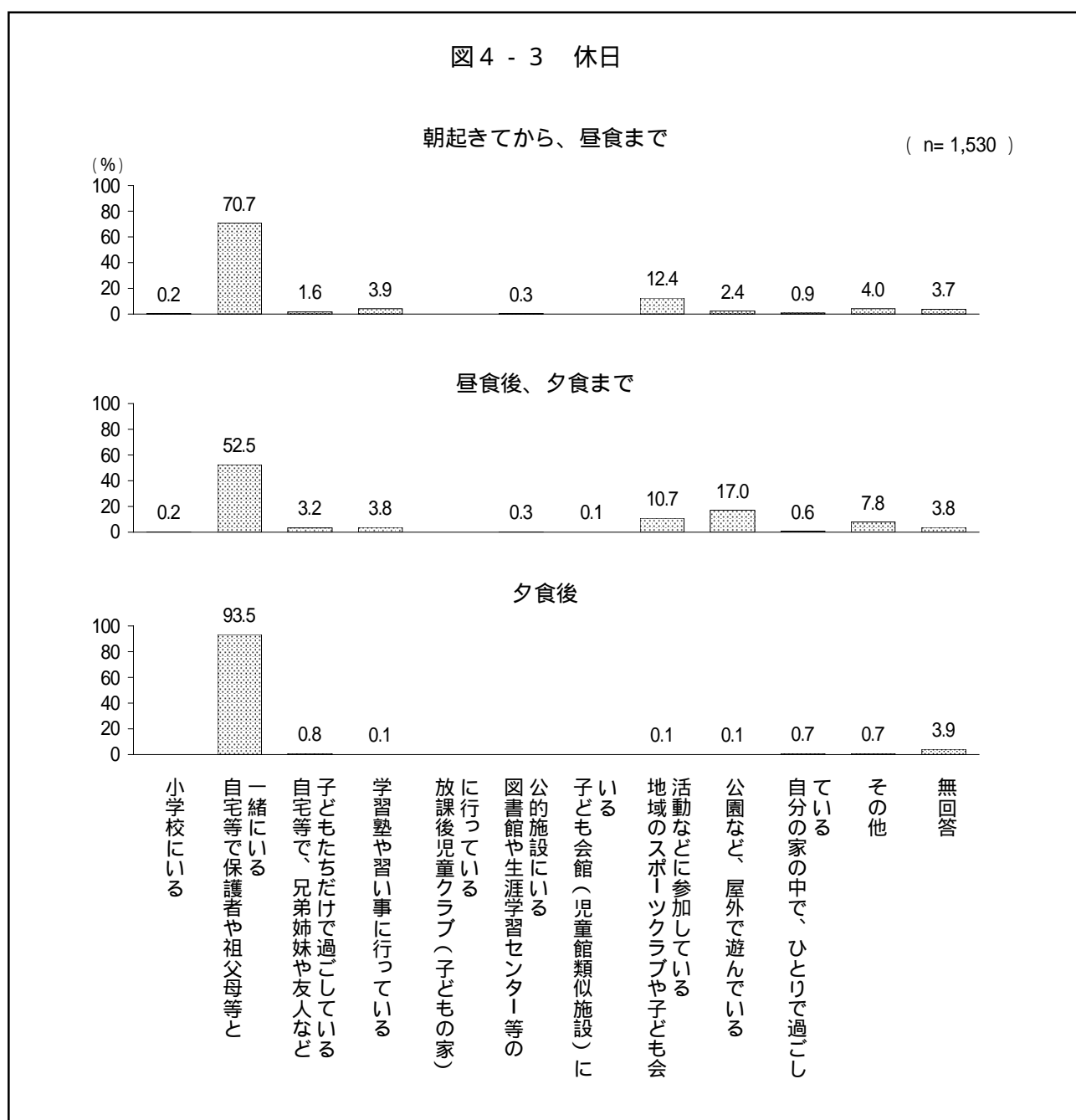
学校の休みの日の日常的な子どもの過ごし方で一番多いものを、朝起きてから、昼食まで 昼食後、夕食後まで 夕食後 の3つの時間帯についてきいた。

土曜日の場合、朝起きてから、昼食まで では、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいる」が70.4%と圧倒的に多くなっている。

昼食後、夕食まで では、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいる」(37.5%)のほか、「学習塾や習い事に行っている」(16.9%)、「公園など、屋外で遊んでいる」(15.0%)、「地域のスポーツクラブや子ども会活動などに参加している」(12.7%)などに分散している。

夕食後 では、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいる」が93.1%と圧倒的に多くなっている。

図4 - 3 休日



休日の場合、朝起きてから、昼食まででは、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいる」が70.7%と圧倒的に多くなっている。

昼食後、夕食後まででは、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいる」(52.5%)が過半数を占めている。また、「公園など、屋外で遊んでいる」(17.0%)、「地域のスポーツクラブや子ども会活動などに参加している」(10.7%)などに分散している。

夕食後では、「自宅等で保護者や祖父母等と一緒にいる」が93.5%と圧倒的に多くなっている。

4 - 3 平日の放課後児童クラブ（子どもの家）の利用状況

Q13-1 該当のお子さんは、平日の放課後に、放課後児童クラブ（子どもの家）を利用していますか。

図4-4

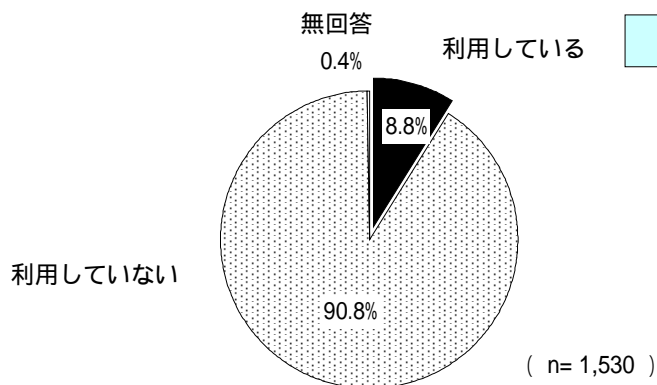


図4-5

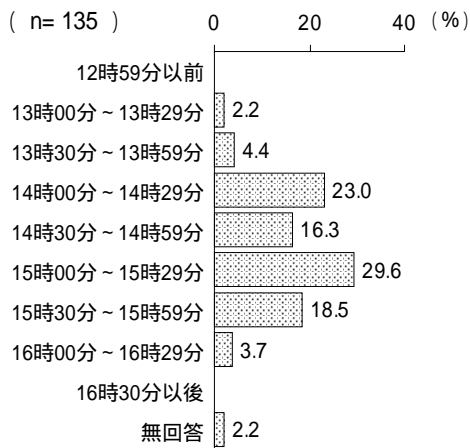


平日に放課後児童クラブを「利用している」が8.8%である。その利用日数は「月に15日以上」が40.0%と最も多く、以下「月に10～14日」(17.0%)、「月に5日～9日」(13.3%)の順で続いている。

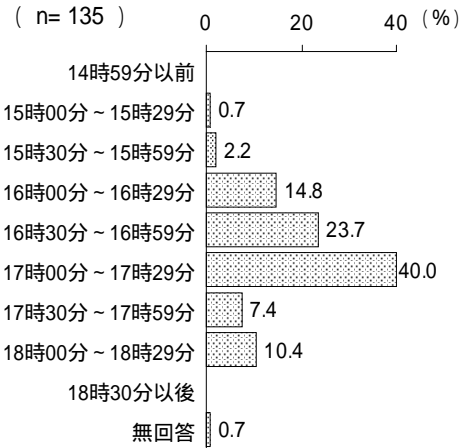
また、この結果を平均すると「月に11.5日」となる。

図 4 - 6

平日の放課後児童クラブの利用開始時刻



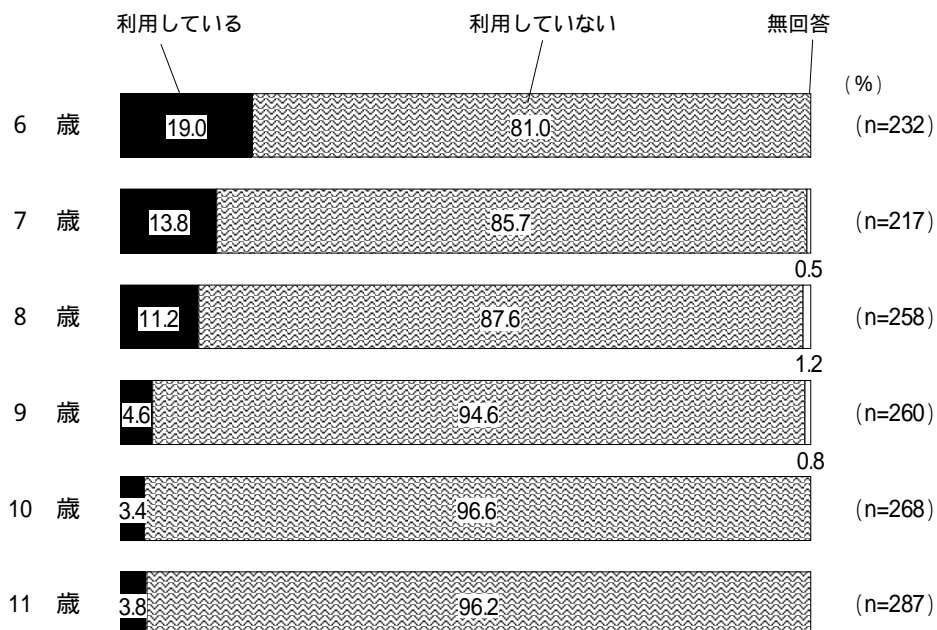
平日の放課後児童クラブの利用終了時刻



平日に放課後児童クラブを《利用している》と回答した人に、その開始時間と終了時間を聞いた。開始時間では、「15時00分～15時29分」(29.6%)が、終了時間では、「17時00分～17時29分」(40.0%)が多くなっている。

利用の有無を子どもの年齢別で見ると、6歳では、「利用している」が19.0%を占めているほか、7歳・8歳でも1割を超えている。

図 4 - 7 子どもの年齢別 平日の放課後児童クラブ(子どもの家)の利用状況





4 - 4 土曜日の放課後児童クラブ（子どもの家）の利用状況

Q 1 3 - 2 該当のお子さんは、土曜日に、放課後児童クラブ（子どもの家）を利用していますか。

図 4 - 8

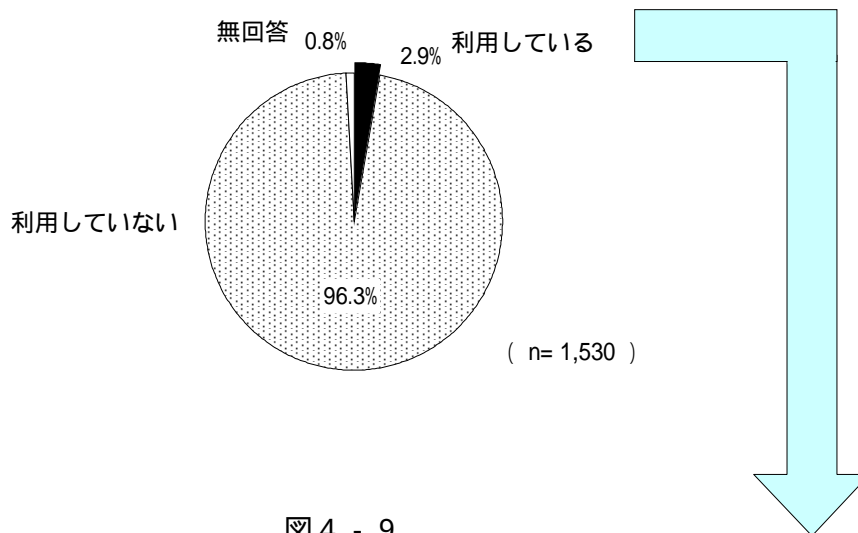
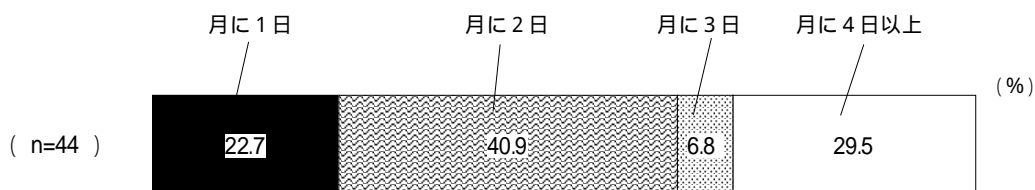


図 4 - 9

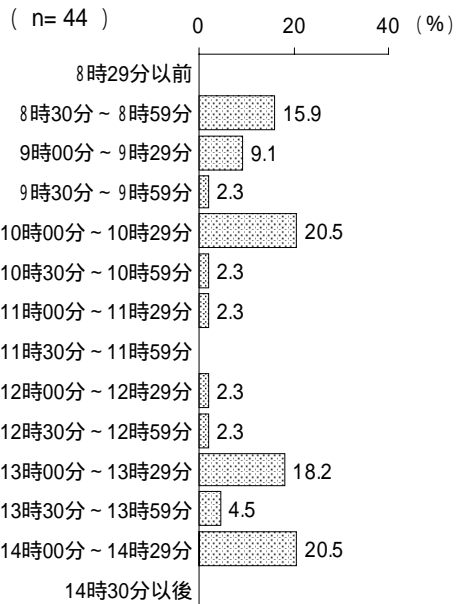


土曜日の放課後児童クラブを「利用している」が2.9%である。その利用日数は「月に2日」(40.9%)が最も多くなっている。

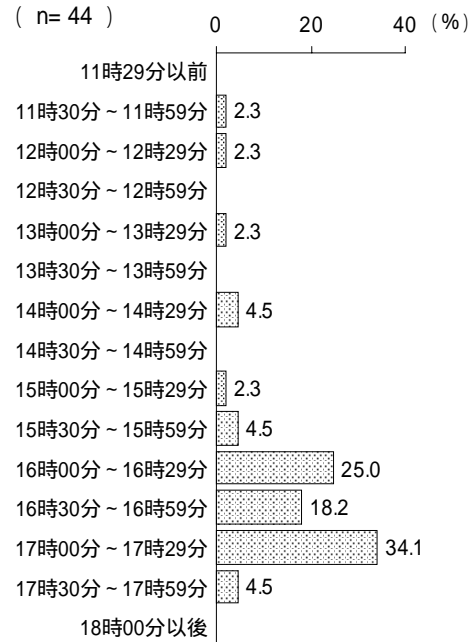
また、この結果を平均すると「月に2.5日」となる

図 4 - 10

土曜日の放課後児童クラブの利用開始時刻



土曜日の放課後児童クラブの利用終了時刻

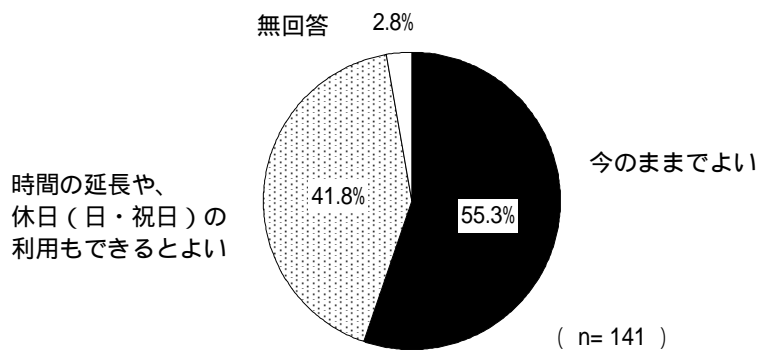


開始時間では、「10時00分～10時29分」( 20.5% ) と「14時00分～14時29分」( 20.5% ) が、終了時間では、「17時00分～17時29分」( 34.1% ) が多くなっている。

4 - 5 放課後児童クラブ(子どもの家)の利用時間の延長や休日の利用の希望

Q 1 3 - 3 放課後児童クラブ(子どもの家)の利用時間等についてどのようにお考えですか。  
( は1つ )

図 4 - 11

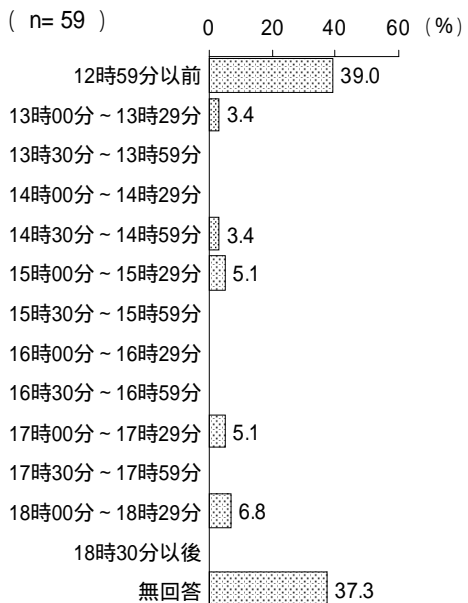


現在通っている放課後児童クラブの利用時間についてみると、「今のままでよい」が55.3%を占めている。一方、「時間の延長や、休日(日・祝日)の利用もできるとよい」は41.8%となっている。

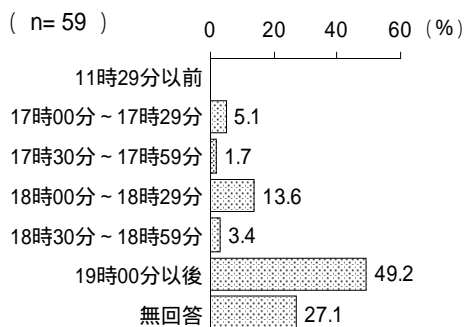
続いて、時間の延長や、休日（日・祝日）の利用を望まれる場合、ご希望の時間帯を記入してください。

図 4 - 12

平日の放課後児童クラブの利用希望開始時刻



平日の放課後児童クラブの利用希望終了時刻

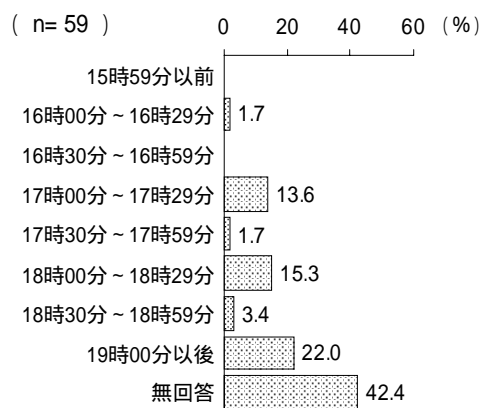
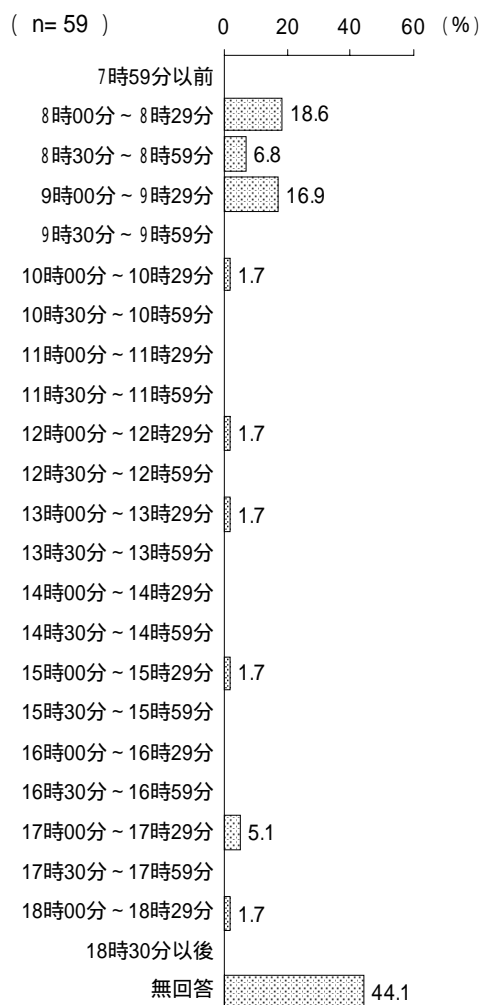


現在、放課後児童クラブについて、時間の延長や、休日（日・祝日）の利用もできるとよいという人（全体の41.8%）に、希望の時間帯をきいたところ、平日の場合、開始時間では、「12時59分以前」（39.0%）が、終了時間では、「19時00分以後」（49.2%）が多くなっている。

図 4 - 13

土曜日の放課後児童クラブの利用希望開始時刻

土曜日の放課後児童クラブの利用希望終了時刻



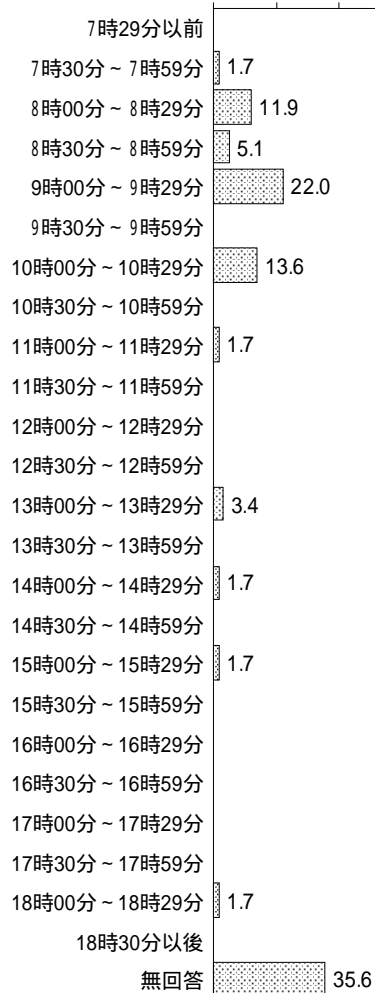
土曜日の場合、開始時間では、「8時00分～8時29分」(18.6%)と「9時00分～9時29分」(16.9%)が、終了時間では、「19時00分以後」(22.0%)が多くなっている。

図 4 - 14

休日の放課後児童クラブの利用希望開始時刻

休日の放課後児童クラブの利用希望終了時刻

( n= 59 ) 0 20 40 60 (%)



( n= 59 ) 0 20 40 60 (%)



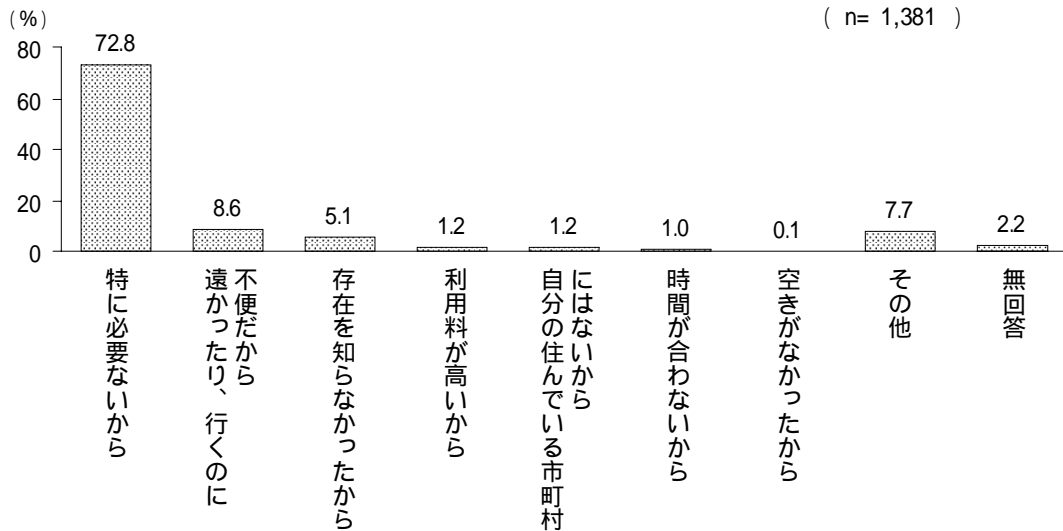
休日（日・祝日）曜日の場合、開始時間では、「9時00分～9時29分」（22.0%）が、終了時間では、「19時00分以後」（25.4%）が多くなっている。

#### 4 - 6 放課後児童クラブを利用しない理由

【次のQ13-4は、Q13-1・Q13-2両方に「2.利用していない」と答えた方におたずねします】

Q13-4 該当のお子さんが放課後児童クラブ(子どもの家)を利用していない理由は、次のうちどれですか。( は1つ)

図4-15

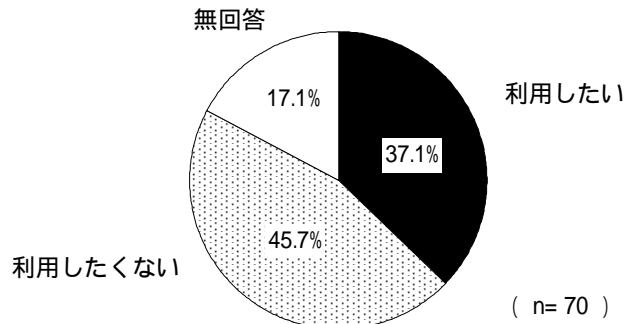


土曜日も日曜日も放課後児童クラブを利用していないという人(全体の90.3%)に、その理由をきくと、「特に必要ないから」が72.8%で最も多くなっている。他の項目では「遠かったり、行くのに不便だから」(8.6%)と「存在を知らなかったから」(5.1%)が多くなっている。

4 - 7 放課後児童クラブ（子どもの家）を知らなかった人の今後の利用の希望

Q13-5 今後、放課後児童クラブ（子どもの家）を利用したいと思いますか。

図4-16



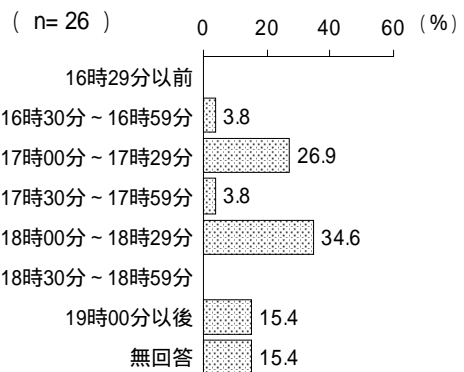
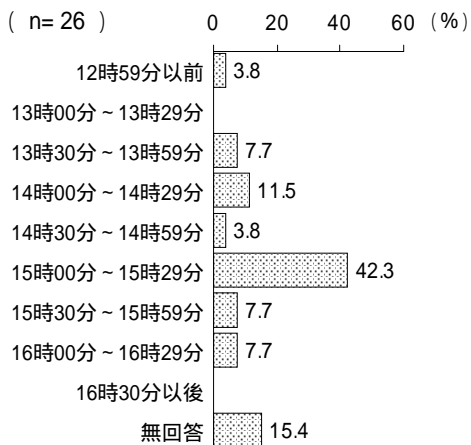
知らなかった人の今後の放課後児童クラブ利用希望の有無では、「利用したい」が37.1%である。

利用したい時間帯は？

図4-17

平日の放課後児童クラブの利用希望開始時刻

平日の放課後児童クラブの利用希望終了時刻



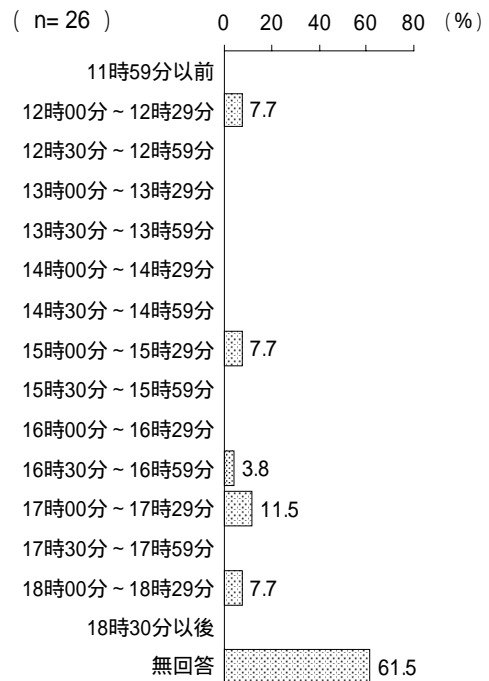
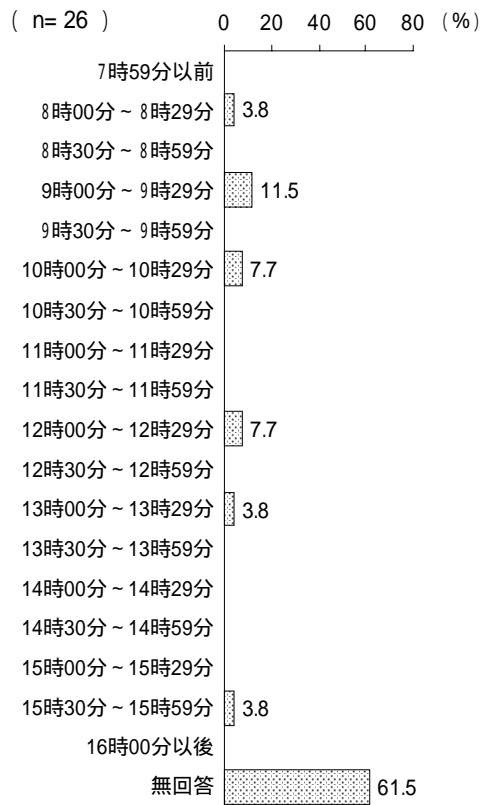
平日の利用したい時間帯としては、開始時間は「15時00分～15時29分」(42.3%)が、終了時間は「18時00分～18時29分」(34.6%)が多くなっている。



図 4 - 18

土曜日の放課後児童クラブの利用希望開始時刻

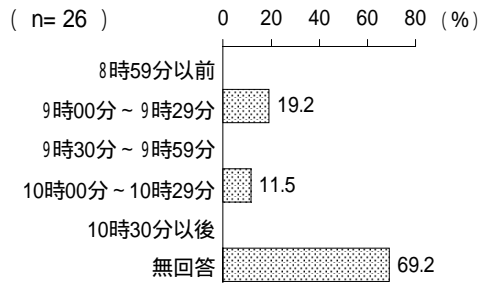
土曜日の放課後児童クラブの利用希望終了時刻



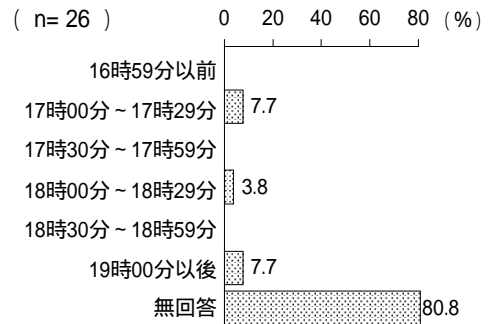
土曜日の利用したい時間帯としては、開始時間は「9時00分～9時29分」(11.5%)が、終了時間は「17時00分～17時29分」(11.5%)が多くなっている。

図 4 - 19

休日の放課後児童クラブの利用希望開始時刻



休日の放課後児童クラブの利用希望終了時刻



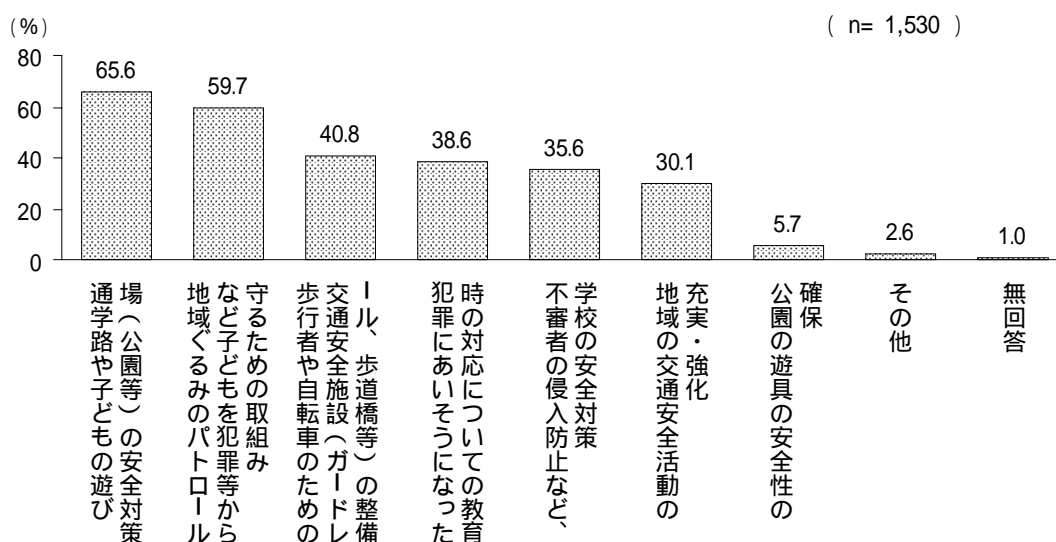
休日（日・祝日）の利用したい時間帯としては、開始時間は「9時00分～9時29分」（19.2%）が、終了時間は「17時00分～17時29分」（7.7%）と「19時00分以後」（7.7%）が多くなっている。

## 第5章 次世代育成支援（子育て支援）のあり方

### 5 - 1 子どもの安全を守るために重要なこと

Q14-1 子どもの安全を守るために、特に重要と思われることは次のうちどれですか。  
( は3つまで)

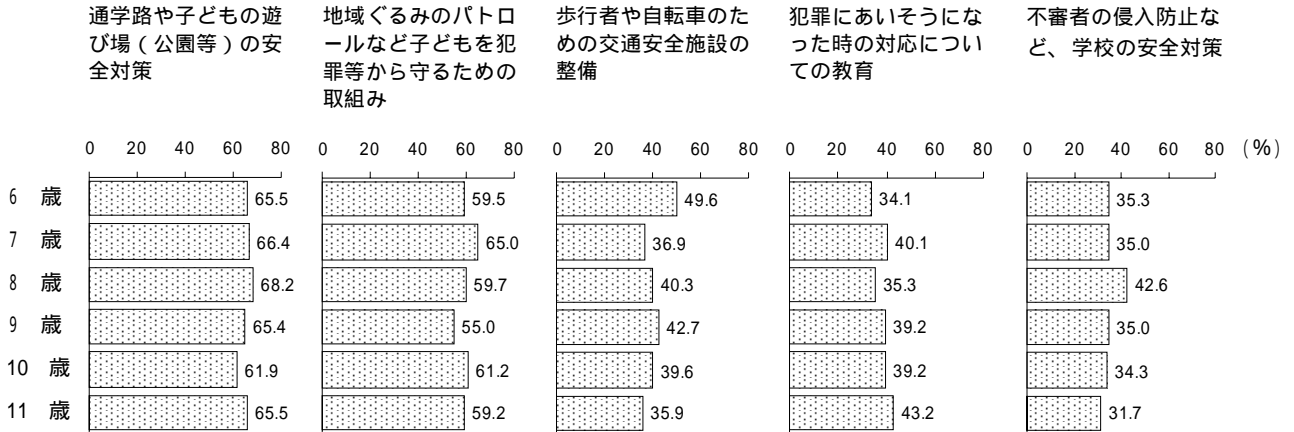
図5-1



子どもの安全を守るの必要なものとしては、「通学路や子どもの遊び場（公園等）の安全対策」が65.6%で最も多く、以下「地域ぐるみのパトロールなど子どもを犯罪等から守るための取組み」（59.7%）、「歩行者や自転車のための交通安全施設（ガードレール、歩道橋等）の整備」（40.8%）、「犯罪にあいそうになった時の対応についての教育」（38.6%）、「不審者の侵入防止など、学校の安全対策」（35.6%）の順で続いている。

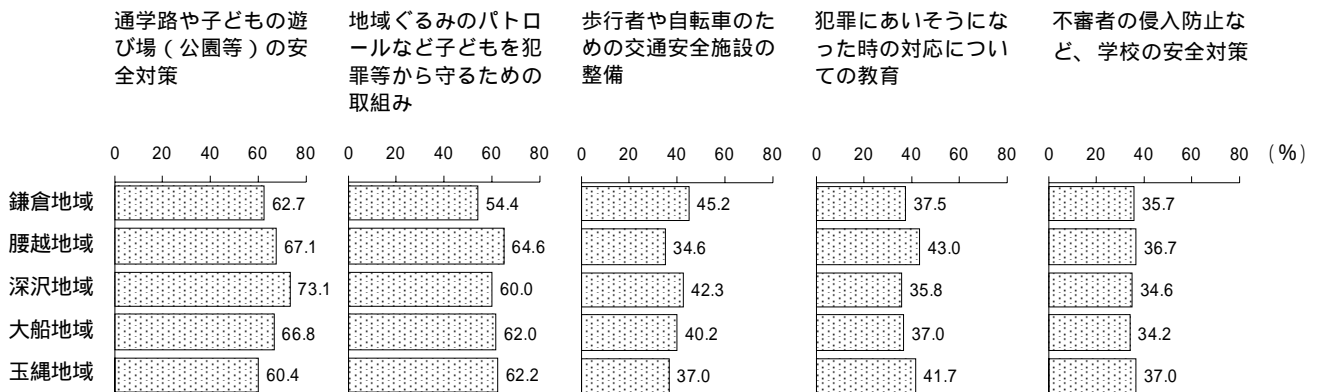
子どもの年齢別でみると、「歩行者や自転車のための交通安全施設（ガードレール、歩道橋等）の整備」が、6歳では49.6%と、他の年齢に比べて多くなっている。

図5 - 2 子どもの年齢別 子どもの安全を守るために重要なこと（上位5位）



さらに、居住地域別でみると、「通学路や子どもの遊び場（公園等）の安全対策」が、深沢地域で73.1%と、他の地域に比べて多く、唯一の7割台となっている。

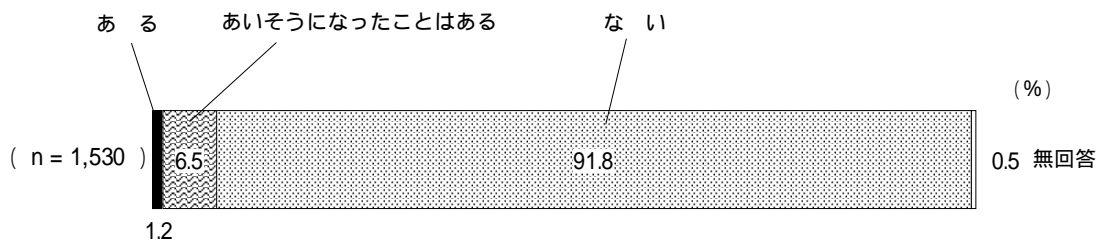
図5 - 3 居住地域別 子どもの安全を守るために重要なこと（上位5位）



5 - 2 犯罪被害経験の有無

Q14-2 該当のお子さんが、犯罪の被害にあったことはありますか。( は1つ)

図5-4

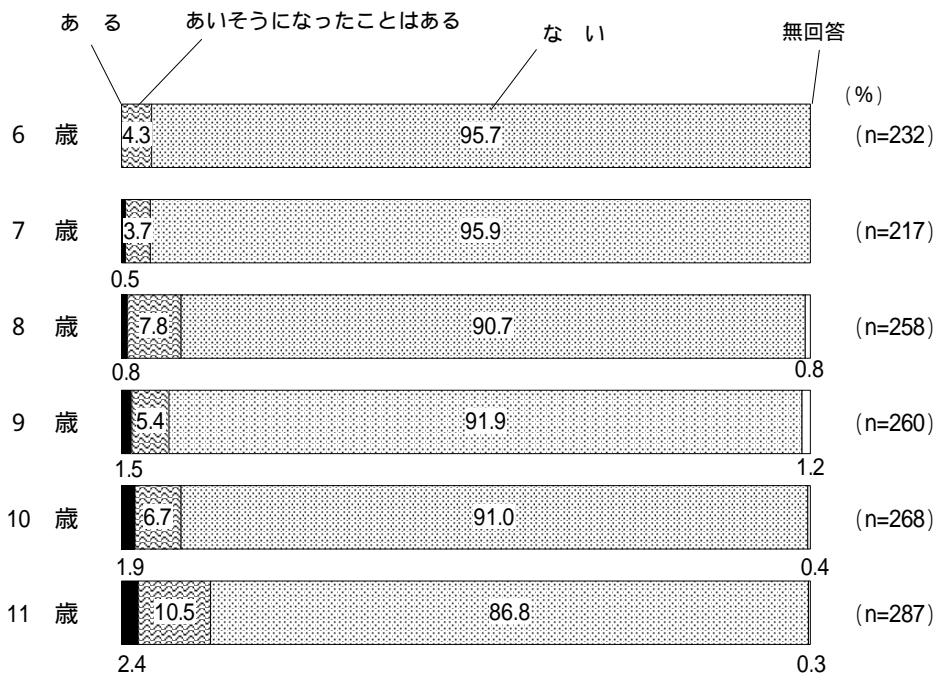


子どもが犯罪の被害にあったことが「ある」のは1.2%で、これに「あいそうになったことはある」(6.5%)を合わせると、子どもの7.7%が 犯罪被害に直面した ことになる。

一方、「ない」は91.8%である。

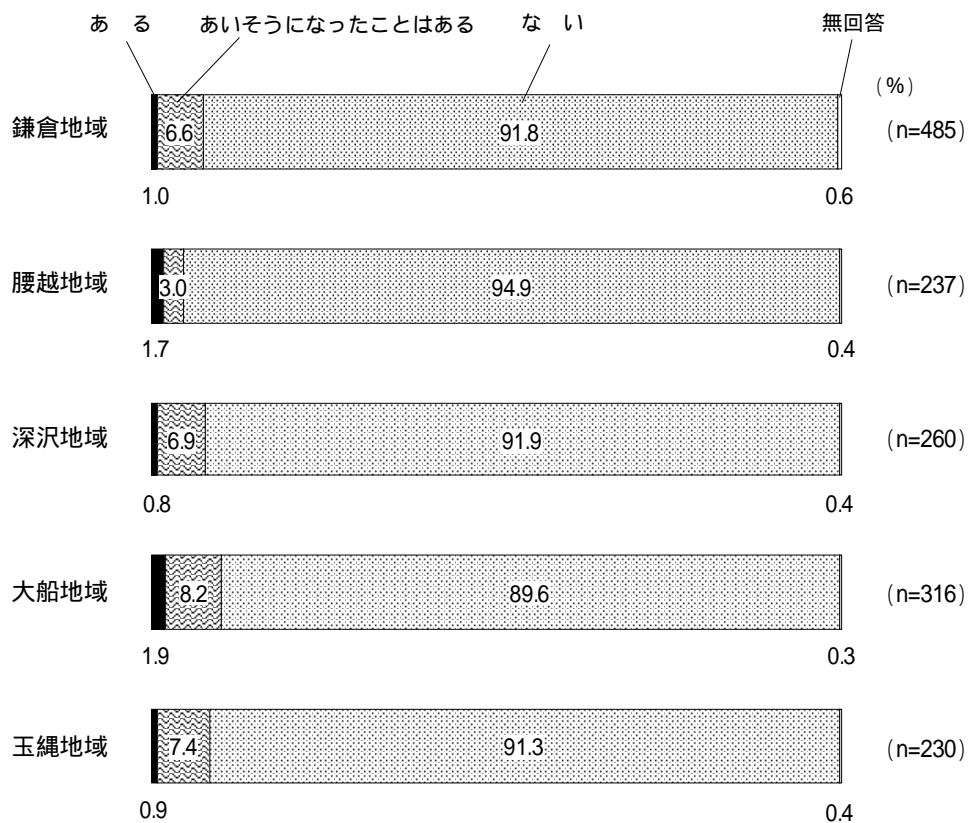
子どもの年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、「ある」「あいそうになったことはある」が微増する傾向にあり、11歳では 犯罪被害に直面した が12.9%を占めている。

図5-5 子どもの年齢別 犯罪被害経験の有無



さらに、居住地域別で見ると、大船地域で、犯罪被害に直面した が10.1%と最も高く、最も低い腰越地域（4.7%）から見ると、約2倍となっている。

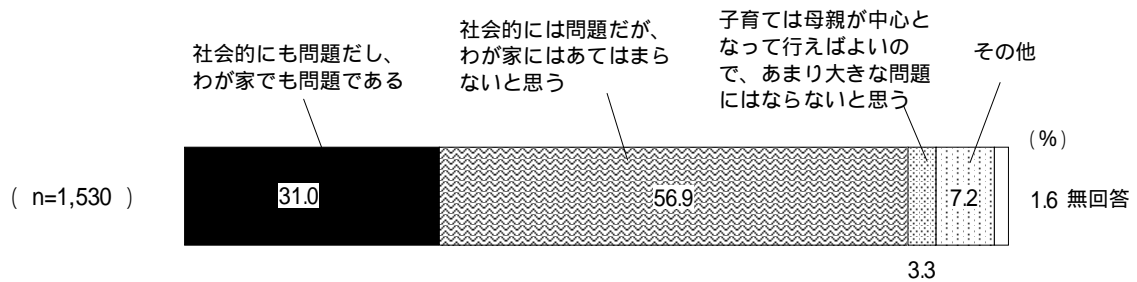
図5 - 6 居住地域別 犯罪被害経験の有無



### 5 - 3 子育て中の家庭での父親不在について

Q15 - 1 近年、子育て中の家庭での父親不在（父親が、子育てにあまりかかわらない、かかわる時間がないこと）が問題となっていますが、このことについてどう思いますか。（ は1つ）

図5 - 7



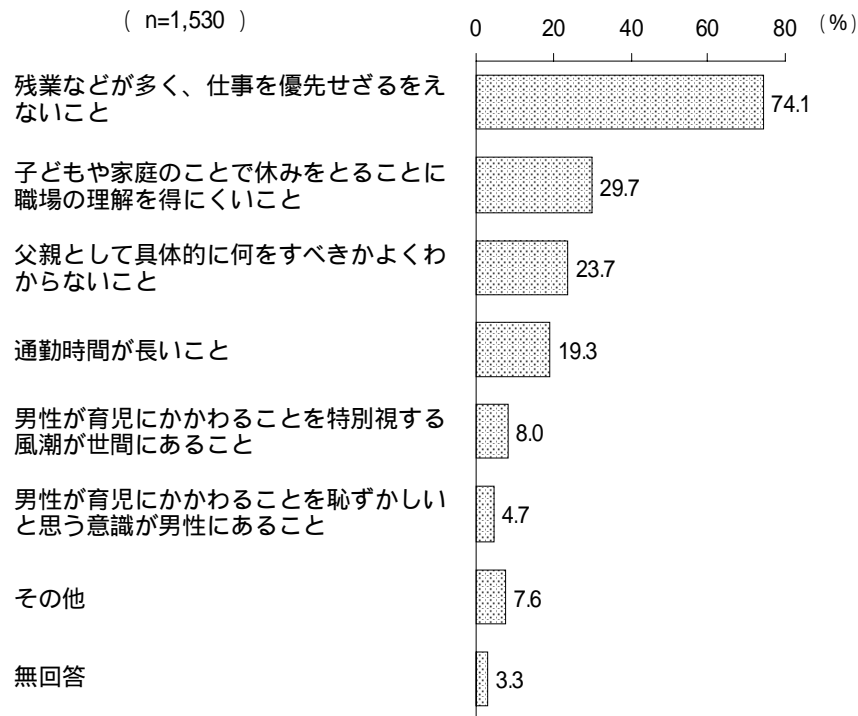
子育て家庭における父親不在という現象については、「社会的にも問題だし、わが家でも問題である」が31.0%を占めている。一方、「社会的には問題だが、わが家にはあてはまらないと思う」は56.9%と過半数を占めている。

なお、「子育ては母親が中心となって行えばよいので、あまり大きな問題にはならないと思う」は3.3%と極めて少なくなっている。

#### 5 - 4 父親が子育てにかかわりづらい理由

Q15-2 父親が子育てにかかわりづらいのは、どうしてだと思いますか。( は2つまで)

図5-8



父親が子育てにかかわりづらい理由としては、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえないこと」(74.1%)が突出して多くなっている。また、「子どもや家庭のことで休みをとることに職場の理解を得にくいこと」(29.7%)、「父親として具体的に何をすべきかよくわからないこと」(23.7%)、「通勤時間が長いこと」(19.3%)も多くなっている。



